

シラバス

石川県立総合看護専門学校
専門課程 第二看護学科
令和8年度生

シラバス

石川県立総合看護専門学校
専門課程 第二看護学科

目 次

I	教育理念	1
II	教育目的	1
III	教育目標	1
IV	卒業生像	1
V	3つのポリシー	2
VI	教育計画	3
VII	教育課程の構造図	5
VIII 基礎分野		
	目的・目標・科目構成	7
	授業実施計画	8
	科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容	8
	授業要綱	11
IX 専門基礎分野		
	目的・目標・科目構成	25
	授業実施計画	26
	科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容	26
	授業要綱	31
X 専門分野		
	目的・目標・科目構成	53
	各専門分野における目的・目標・科目構成・授業実施計画	54
	授業要綱	
	基礎看護学	82
	地域・在宅看護論	100
	成人看護学	113
	老年看護学	129
	小児看護学	137
	母性看護学	145
	精神看護学	151
	看護の統合と実践	158
XI	教育に関する事項	166
XII	教科外教育活動	167

I. 教育理念

生命尊重

人間愛

使命感

責任感

自立

II. 教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、社会のニーズに貢献しうる人間性豊かな看護の実践者を育成する。

III. 教育目標

1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる能力を養う。
2. 人々の健康上の課題に対応するため科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
3. 多様な場で生活する人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種の協働の中で看護の役割が理解することができる能力を養う。
5. 専門職業人として向上し続けるために最新の知識・技術を自ら学び続ける能力を養う。

IV. 卒業生像

人間の生命と尊厳を尊重するための高い倫理観を持ち、社会や人々の多様な健康ニーズをその人らしい生活への看護実践につなげていくとともに、そのための必要な知識や実践的な技術を有し、専門職業人として使命感を持って学び続ける看護職。

V. 3つのポリシー

A P

1. 他者と協働し、共に成長することを目指す者
2. 看護学を学ぶ上で必要なコミュニケーション能力と基礎的学力を有する者
3. 看護学に関する学修に意欲的に取り組み、将来看護実践者として活躍する意志のある者

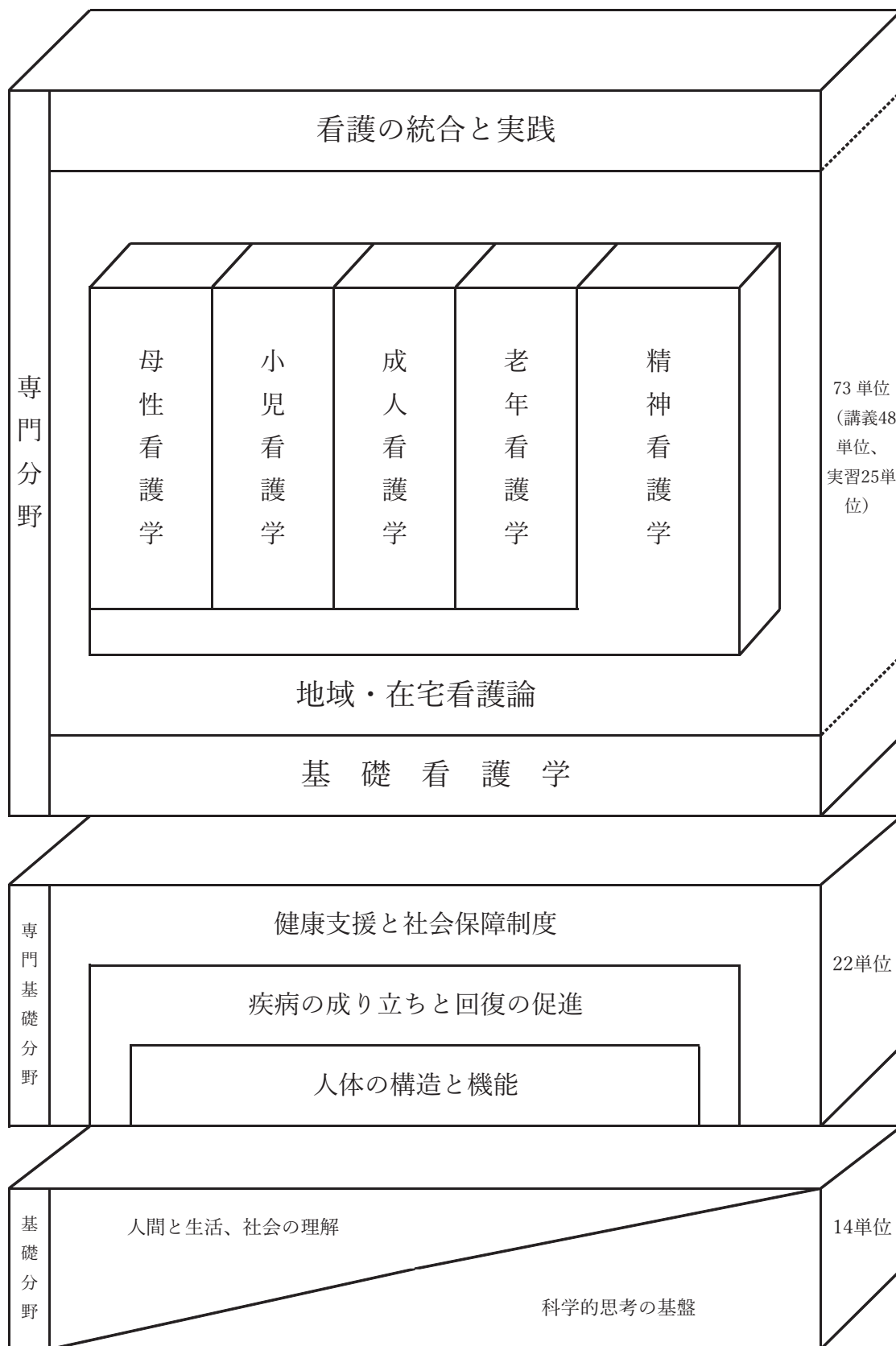
C P

1. 地域で暮らす人々の理解を深める
2. 基礎看護技術の習得と発達段階・健康レベルに応じた実践を学習する
3. 社会のニーズを把握し、地域の医療・保健・福祉を理解する
4. 看護的視点をもって観察し的確な判断・看護実践ができる基礎を学ぶ

D P

1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。
2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。
3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。
5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。

VII.教育課程の構造図



VIII 基礎分野

基 礎 分 野

目 的：専門科目の基礎を学び、人間及び環境を総合的に理解する能力と判断力を養い人間形成に役立てる。

目 標：1 科学的思考力を高めるための基礎を身につける
2 人間と生活・社会の理解ができる。

構 成：科学的思考の基盤

1. 生物学	1 単位 (15 時間)
2. 日本語表現法	1 単位 (30 時間)
3. 情報科学 I	1 単位 (15 時間)
4. 情報科学 II	1 単位 (15 時間)
5. 情報科学 III	1 単位 (30 時間)
6. 統計学	1 単位 (30 時間)

人間と生活、社会の理解

1. 心理学	1 単位 (30 時間)
2. 社会学	1 単位 (30 時間)
3. 教育学	1 単位 (30 時間)
4. 倫理学	1 単位 (30 時間)
5. 文化人類学	1 単位 (15 時間)
6. 人間関係論	1 単位 (30 時間)
7. 医療英語	1 単位 (30 時間)
8. いきいき健康づくり論	1 単位 (30 時間)

* 印は実務経験がある担当者である

授業実施計画

授業科目		履修単位	第二看護学科			
			1年次	2年次	3年次	4年次
科学的思考の基盤	生物学	1単位 (15時間)	15時間			
	日本語表現法	1単位 (30時間)	30時間			
	情報科学Ⅰ	1単位 (15時間)	15時間			
	情報科学Ⅱ	1単位 (15時間)	15時間			
	情報科学Ⅲ	1単位 (30時間)		30時間		
	統計学	1単位 (30時間)			30時間	
人間と生活・社会の理解	心理学	1単位 (30時間)	30時間			
	社会学	1単位 (30時間)	30時間			
	教育学	1単位 (30時間)	30時間			
	倫理学	1単位 (30時間)	30時間			
	文化人類学	1単位 (15時間)			15時間	
	人間関係論	1単位 (30時間)	30時間			
	医療英語	1単位 (30時間)				30時間
	いきいき健康づくり論	1単位 (30時間)				30時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	設定理由	科目目標	教育内容
生物学 (15時間)	看護の対象としての人間を生体としての側面から理解する。	1. 生物の構造、種の保存等生体としての人間を理解する。 2. 遺伝の仕組みについて理解する。 3. 生物の相互関係とその仕組みについて理解する。	1. 生命とは 2. 細胞 3. 恒常性 4. 代謝 5. 生殖 6. 遺伝子発現とタンパク質合成
日本語表現法 (30時間)	自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための倫理的思考や表現方法を身につける。	1. 書くこと、話すことの理論と実践を通して、日本語表現の能力を高めるための基礎を身につける。 2. 自分の考えを主体的、論理的に表現する能力を養うと共に、的確に相手に伝える能力を養う。	1. 基本的な文章表現法 2. 文章の作成 3. 小論文 4. 待遇表現 5. 論説文

情報科学 I (15 時間)	デジタル技術の進歩によりさまざまな知識や情報が共有され、医療においても情報活用能力が求められる。現代社会における情報活用の基本的知識を学ぶ。	1. 現代社会における情報活用能力の基本的知識を理解する。	1. 情報の定義と特徴 2. 看護と情報 3. 情報リテラシー 4. コンピューターリテラシーとセキュリティ 5. 基本的なパソコン操作
情報科学 II (15 時間)		1. プレゼンテーションの基礎知識とコンピューター操作を身につける	1. プレゼンテーションの基礎知識 2. PowerPoint の操作
情報科学 III (30 時間)		1. 文章作成・情報管理のコンピューター操作を身につける。	1. Excel による統計解析 2. Microsoft Word の使い方
統計学 (30 時間)	統計処理の基礎的知識を理解し、分析結果を読みとる能力を養う。	1. 統計処理の基本的知識を理解できる。 2. データを解釈し分析結果を読みとることができる。 3. 看護研究を実施していく上で必要となる種々の統計学技法を理解する。	1. 統計学の概要 2. 記述統計 3. 推測統計 4. 仮説検定
心理学 (30 時間)	看護の対象は、身体面、心理面、社会面の 3 側面を持つ人間である。その対象の心理や行動面を理解する上での基礎的知識が必要である。また、看護師を目指す学生にとって自己理解につなげ、人間形成を促すために重要であり、看護に応用できる能力を養う。	1. 人間の心と行動について学び、自己と他者を理解するきっかけとする。さらに、大人への成長・発達に伴う変化と個人差や、患者の心理、行動についても理解する 2. 行動が示すあらゆる動きを観察し、人間を行動面より理解する	1. 看護における人間理解 2. 認知からの人間理解 3. 行動からの人間理解 4. 発達からの人間理解 5. パーソナリティからの人間理解 7. 人間関係からの人間理解 8. 看護の分野における行動科学
社会学 (30 時間)	社会的存在としての人間理解の面から、個と家族の理解、家族としての役割機能、個人と生活について捉え、人々の健康と生活を自然社会・文化的環境との相互作用等の観	1. 変動する社会構造や機能、現代社会の特徴を理解できる。 2. 社会構造と人間生活との関係、医療との関係について考える	1. 社会学の基本的概念 2. 社会の構造と機能 3. 地域社会と都市化 4. 家族と社会 5. 職業と職業集団 6. 医療という社会行為 7. 現代社会の特徴

	点から理解する。		8. 社会問題と政策的対応
教育学 (30 時間)	教育は人間形成のうえで大きな役割を担っており、人間理解、自己理解を深める	1. 看護における教育的役割や学習について理解する。 2. 生涯教育の必要性について理解する。	1. 教育とは何か 2. 学校教育 3. 義務教育 4. ヒドゥン・カリキュラム 5. 生と死の教育 6. 子どもの人権
倫理学 (30 時間)	倫理学の根本を学び、専門職としての対象の人権を尊重し、主体的な判断、責任を持ったサービスの提供者として自らを律し、人間としての倫理観を養う。	1. 日常の生活や現代社会の倫理的な諸問題を学問的に学び、これを出発点として自己及び社会への関わり方を考える。	1. 倫理学とは 2. 自由で独立した精神について
文化人類学 (15 時間)	日本と外国の文化・生活を学ぶことで、自己の理解（他者の理解）を尊重することにつながると考える。多様な場で生活する人々を広い視野に立ち理解する。	1. 人間の文化や社会の様々な側面を眺めてみることで、人間に対する理解を深める 2. 異文化理解のあり方について考える。	1. 人間と文化 2. 異文化理解の必要性 3. 社会と文化 4. 人生と時間 5. ジェンダーとセクシュアリティ 6. 医療人類学
人間関係論 (30 時間)	看護師には対象者の発達段階や身上を考慮し健康へとファシリテートしていく力が不可欠であり、あらゆる人々と良好な関係や教育的な関係をつくる基礎的能力を養う。	1. 一般的な人間関係の理論を理解する。 2. 社会的な役割を認識し、人間として医療者として人の心に寄り添う態度を養う。	1. 人間存在と人間関係 2. コミュニケーションの概念 3. カウンセリング 4. コーチング 5. ソーシャルサポートをめぐる人間関係 6. ノーマライゼーションを育む人間関係
医療英語 (30 時間)	医療看護の専門用語を身につけ、看護場面における初歩的な英会話力を養う。	1. 基本的な医学用語、看護用語を理解する。 2. 看護場面でよく使われる英語表現を身につける。	1. 医学用語、看護用語 2. 看護場面における英会話
いきいき健康づくり論 (30 時間)	健康づくりの理論と実際を学び、自己の体力を增强し、心身の健康を図るとともに看護に応用できる能力を養う。	1. 健康づくりの理論と実際について理解する。	1. 健康づくりとレクリエーション 2. 健康づくりの実際

科目名 生物学	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次 後期	講義担当者 大学、短大講師
科目のねらい・授業目標 看護の対象としての人間を生体としての側面から理解する。広い視野をもち、自立した専門家となるために不可欠な基礎能力をたかめる。 1. 生物の構造、種の保存等生体としての人間を理解する。 2. 遺伝の仕組みについて理解する。 3. 生物の相互関係とその仕組みについて理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授 業 内 容	方 法	備 考
1, 生命とは 2. 細胞－生命の基本単位 3－4. 恒常性 5. 代謝のしくみ 6. 生殖 7. 遺伝子発現とたんぱく質合成	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 教養基礎シリーズ まるわかり！基礎生物 南山堂		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院		
受講上の注意		

科目名 日本語表現法	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 書くこと、話すことの理論と実践を通して、日本語表現の能力を高めるための基礎を身につける。 自分考えを主体的、論理的に表現する能力を養うと共に、的確に相手に伝える能力を養う。		
DP との関連 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 基本的な文章表現法 2. 漢字習得の近道 3. 同音異義語 4. 同訓異義語 5. 文章作成編 文章構成・文章の要約 6. 小論文 7. 文章の構成・原稿用紙の使い方 8. 慣用表現の誤用 9. 履歴書・エントリーシート 10. 待遇表現① 11. 待遇表現② 12. 手紙とはがき 13. ビジネス文書 14. 論説文と批評文	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 新版 日本語表現法「書く」「話す」「伝わる」ための技法 樹村房		評価方法 確認テスト 筆記試験
参考図書		
受講上の注意 確認テストが数回あります。		

科目名 情報科学 I	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次 前期	講義担当者 大学・短大の 情報科学担当者*
科目のねらい・授業目標 デジタル技術の進歩によりさまざまな知識や情報が共有され、医療においても情報活用能力が求められる。現代社会における情報活用能力の基本的知識を学ぶ。 現代社会における情報活用能力の基本的知識を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1－2. 情報の定義と特徴 情報とは何か 情報の特性 情報の伝達とコミュニケーション	講義	
3. 看護と情報 看護における情報		
4. 情報リテラシー 情報化社会の成立 情報化社会で求められること 情報倫理とは、個人情報の保護		
5－7. コンピュータリテラシーとセキュリティ パソコンに関する基礎知識 インターネットに関する基礎知識 インターネットを活用した情報収集	講義・演習	
8. まとめとレポート試験	レポート試験	
使用する図書		評価方法 レポート試験
参考図書 系統看護学講座 看護情報学 医学書院		
受講上の注意		

科目名 情報科学Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次 後期	講義担当者 大学・短大の 情報科学担当者＊
科目のねらい・授業目標 情報技術の急速な進歩に対応し、基本的なコンピュータの操作を身につける。		
DP との関連 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. プレゼンテーションの基礎知識 2. PowerPoint の操作	講義・演習	
8. 実技試験	実技試験	
使用する図書		評価方法 参加態度 実技試験
参考図書 ・系統看護学講座 看護情報学 医学書院		
受講上の注意		

科目名 情報科学Ⅲ	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次 前期	講義担当者 大学・短大の 情報科学担当者＊
科目のねらい・授業目標 情報技術の急速な進歩に対応し、基本的なコンピュータの操作を身につける。		
DP との関連 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. パソコンの基本操作 のおさらい 2－8. Microsoft Word	講義・演習	
9－14. Excel による統計解析	講義・演習	
15. 実技試験	実技試験	
使用する図書		評価方法 参加態度 実技試験
参考図書 ・系統看護学講座 看護情報学 医学書院		
受講上の注意		

科目名 統計学	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次前期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 統計処理の基礎的知識を理解し、分析結果を読みとる能力を養う。 1. 統計処理の基本的知識を理解できる。 2. データを解釈し分析結果を読み取ることができる。 3. 看護研究を実施していく上で必要となる種々の統計学技法を理解できる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 統計学の概要：統計処理とは 2. 統計処理の基本的概念：確率・誤差・データの種類 3～8. 記述統計 1) 軽量データの記述と基本統計量 2) 度数分布表、ヒストグラム、平均値と中央値 3) 分散と標準偏差、計数データの記述 4) 変数の関係(1) 散布図・相関関係 5) 変数の関係(2) 回帰直線 6) 正規分布、確率分布と偏差値 9. 10. 推測統計 1) 推測統計とは 2) 母集団と標本、標本の抽出 11～14. 仮説検定 1) 仮説検定とは 2) t 分布を用いた平均値の検定、平均値の差の検定 3) ノンパラメトリックな検定、計数データの検定 4) 仮説検定：有意水準の意義と表現方法	講義・演習	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 やさしい保健統計学 南江堂 参考図書 看護・医療系のための情報科学入門 サイオ出版社 らくらく使えるはじめての統計学 メディカ出版		評価方法 筆記試験
受講上の注意		

科目名 心理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学、短大講師 または臨床心理士
科目のねらい・授業目標 人間の心と行動について学び、自己と他者を理解するきっかけとする。さらに、大人への成長・発達に伴う変化と個人差や、患者の心理、行動についても理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 心理学とは 2～5. 認知からの人間理解 1) 感覚・知覚 2) 記憶と想起 3) 言語とコミュニケーション 6～7. 行動からの人間理解 1) 欲求と動機づけ 2) 葛藤とフラストレーション 3) 学習と行動 8～9. 発達からの人間理解 1) 発達段階と発達課題 2) 乳幼児期から青年期へ 3) 成人期から老年期へ 10～11. パーソナリティからの人間理解 12. 人間関係からの人間理解 13. 心理臨床からの人間理解 14. 看護に活かす心理学	講義・GW	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 心理学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書 心理学 ナカニシヤ出版 看護学生のための心理学 第2版 医学書院		
受講上の注意		

科目名 社会学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 社会的存在としての人間理解の面から、個と家族の理解、家族としての役割機能、個人と生活について捉え、人々の健康と生活を自然・社会・文化的環境との相互作用等の観点から理解する。 1. 変動する社会構造や機能、現代社会の特徴を理解できる。 2. 社会構造と人間生活との関係、医療との関係について考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 2. 社会学の基本的な概念 1) 社会の意味 2) 個人と社会 3) 現代社会の特徴 3. 4. 社会の構造と機能 1) 社会と集団 2) 社会構造と集団・組織・ネットワーク 5. 地域社会と都市化 6～8. 家族と社会 1) 家族とは 2) 家族と社会 9. 10. 職業と職業集団 1) 職場と社会 2) 経営体と職場集団 11. 12. 医療という社会的行為 13. 現代社会の特徴 1) 現代の特徴 2) 科学技術 3) 環境 4) スポーツ 5) 国際化 6) 高齢化 14. 社会問題と政策的対応 1) 社会問題とその捉え方 2) 社会問題への対応 3) 医療や看護にかかわる社会問題	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 社会学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 教育学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学・短大講師
科目のねらい・授業目標 1. 教育は人間形成のうえで大きな役割を担っており、人間理解、自己理解を深める。 2. 看護における教育的役割や学習について理解する。 3. 生涯学習の必要性について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に応じ、実践することができる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
	授業内容	方法 備考
1. ガイダンス、教育とは何か 2. 学校教育（1）学校とは何か 3. 学校教育（2）教師と子どもの関係 4. 学校教育（3）課題と取組み 5. 義務教育（1）－制度 6. 義務教育（2）－課題と取組み 7. ヒドゥン・カリキュラム（1）－差別を知る 8. ヒドゥン・カリキュラム（2）－セクシュアリティと教育 9. 生と死の教育（1）－教材視聴とディスカッション 10. 生と死の教育（2）－授業づくり 11. 子どもの人権 12. 体罰 13. いじめ 14. 教育と安全	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 なし	評価方法 各回コメント・	
参考図書 系統看護学講座 教育学 医学書院	グループワーク と最終試験（筆記）を合算して	
受講上の注意	評価する。	

科目名 倫理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次 前期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 日常の生活や現代社会の倫理的な諸問題を学び、これを出発点として自己及び社会への関わり方について考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容	方法	備考
1. -14. <自由で独立した精神>について 1) それはどのような精神のことか? 2) それはなぜ必要なのか? (それがなかったらどんな不都合が生じるのか?) 3) それを涵養するにはどうしたらよいか? 4) それを阻害するものは何か? という問いを念頭に置きながら、明治時代の最大の啓蒙家であった福沢諭吉の“学問のすすめ”を講読する。	講読	第5編、第10編、第12編、第14編の各編は学生各自の自習にまかせたい。
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 ・福沢諭吉（著）伊藤正雄（訳） 現代語訳 学問のすすめ 岩波現代文庫 岩波書店		評価方法 筆記試験 72% 出席 28%
参考図書 ・現代語訳 学問のすすめ ちくま新書 筑摩書房 ・学問のすすめ 校注 講談社学術文庫 ・NHK「100分de名著」ブックス 福沢諭吉 学問のすすめ NHK 出版		
受講上の注意 ・ぜひ、予習をして臨んでほしい。 ・授業を受けることで、最低2回読んだことになる。 「古典というものは、読むたびごとに新しい顔を見せるものだ」という実感をもつことはやはり大切なことである。		

科目名 文化人類学	時間数 1 単位 15 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 日本と外国の文化・生活を考え学ぶことで、自己の理解（他者の理解）を尊重することにつながる と考える。人間の文化や社会の様々な側面を眺めてみることで人間に対する理解を深める。異文化理 解のあり方について考え、多様な場で生活する人々を広い視野に立って理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容 1. 文化人類学を学ぶ目的 文化人類学の成り立ちと問題意識 2. 人間・文化・言語とは何か 3. 異文化理解の必要性 異文化理解と自分化理解 4. 社会と文化 1) 社会構造：社会組織、個人、集団 2) 家族：生殖と継承・家族 3) 共同体 5. 人生と時間 1) 誕生：妊娠、出産、誕生の文化 2) 成長：子どもにまつわる文化・成熟の儀式 3) 婚姻と家族：婚礼の文化・儀式 4) 死：看取り・死の概念・葬送儀式の文化 6. ジェンダーとセクシュアリティ 7. 医療人類学 1) 人間の生と死 2) 病と語り：患者と医療者のコミュニケーション	方法 講義	備考
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 文化人類学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 人間関係論	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学・短大講師*
科目のねらい・授業目標 看護師には対象者の発達段階や身上を考慮し健康へとファシリテートしていく力が不可欠である。そのため、広い視座から鑑みる機会を持ち、あらゆる人々と良好な関係や教育的な関係をつくる基礎的能力を養う学習が必要である。 一般的な人間関係の理論の知識やカウンセリングの体験から、人間関係を円滑に作る方法を考える基とする。さらに、社会的な役割を認識し、人間として、医療者として人の心に添う能力を養う。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 人間関係の中の自己と他者 2. 対人関係と役割 3. 社会的相互作用と社会的役割 4. コミュニケーションの理解 5. コミュニケーション技法 6. カウンセリングの理論 7. カウンセリング技法 8. コーチングの理論 9. コーチングの技法 10. 保健医療チームの人間関係 11. 患者を支える人間関係 12. 家族を含めた人間関係 13. 地域をつくる人間関係 14. ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係	講義・演習	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 なし		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 人間関係論 医学書院 人間関係づくりトレーニング 金子書房		
受講上の注意		

科目名 医療英語	時間数 1 単位 30 時間 時期 4 年次前期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 医療看護の専門用語を身につけ、看護場面における初歩的な英会話力を養う。 1. 基本的な医学用語、看護用語を学ぶ。 2. 看護場面でよく使われる英語表現を身につける。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 医学用語・看護用語 診療科、看護職位、医療職種、身体各部位、病院内各部署 2. 看護場面における英会話—Unit 1 受診の予約、Unit 2 受診 3. 看護場面における英会話—Unit 3 問診・医師による診察 4. 看護場面における英会話—Unit 4 薬の服用 5. 看護場面における英会話—Unit 5 再受診・検査 6. 看護場面における英会話—Unit 6 胃の検査 7. 看護場面における英会話—Unit 7 検査結果・入院 8. 看護場面における英会話—Unit 8 術前・術後 9. 看護場面における英会話—Unit 9 待合室での会話 10. 看護場面における英会話—Unit 10 清拭 11. 看護場面における英会話—Unit 11 リハビリ 12. 看護場面における英会話—Unit 12 歯科治療 13. 看護場面における英会話—Unit 13 回復・退院許可 退院後の生活指導 14. 看護場面における英会話—Unit 14 退院	講義 演習	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 Introduction to Medical English 松柏社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

IX 專門基礎分野

専門基礎分野

目的：保健・医療・福祉に関わる基礎的な知識を学び、看護の対象である人間理解に役立てる。

- 目標：1 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進について系統的に理解する。
2 健康支援と社会保障制度について理解する。

構成：人体の構造と機能

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 解剖学 | 2 単位 (45 時間) |
| 2. 生理学 | 2 単位 (45 時間) |
| 3. 生化学 | 1 単位 (15 時間) |
| 4. 栄養学 I | 1 単位 (15 時間) |

疾病の成り立ちと回復の促進

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 栄養学 II | 1 単位 (15 時間) |
| 2. 薬理学 | 1 単位 (30 時間) |
| 3. 病理学 | 1 単位 (30 時間) |
| 4. 疾病論 I | 1 単位 (30 時間) |
| 5. 疾病論 II | 1 単位 (30 時間) |
| 6. 疾病論 III | 1 単位 (30 時間) |
| 7. 疾病論 IV | 1 単位 (30 時間) |
| 8. 微生物学 | 1 単位 (30 時間) |
| 9. 治療総論 | 1 単位 (30 時間) |
| 10. 疾病理解の看護学的視点 | 1 単位 (15 時間) |

健康支援と社会保障制度

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 健康管理論 | 1 単位 (30 時間) |
| 2. 医療と経済 | 1 単位 (15 時間) |
| 3. 公衆衛生学 | 1 単位 (30 時間) |
| 4. 社会福祉論 | 1 単位 (15 時間) |
| 5. 看護関係法令 | 1 単位 (15 時間) |
| 6. 生命倫理 | 1 単位 (15 時間) |

*印は実務経験がある担当者である

授業実施計画

授業科目		履修単位	第二看護学科			
			1年次	2年次	3年次	4年次
構造と機能 人体の	解剖学	2単位 (45時間)	45時間			
	生理学	2単位 (45時間)	45時間			
	生化学	1単位 (15時間)	15時間			
	栄養学Ⅰ	1単位 (15時間)	15時間			
疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学Ⅱ	1単位 (15時間)		15時間		
	薬理学	1単位 (30時間)	30時間			
	病理学	1単位 (30時間)	30時間			
	疾病論Ⅰ	1単位 (30時間)		30時間		
	疾病論Ⅱ	1単位 (30時間)		30時間		
	疾病論Ⅲ	1単位 (30時間)		30時間		
	疾病論Ⅳ	1単位 (30時間)		30時間		
	微生物学	1単位 (30時間)	30時間			
	治療総論	1単位 (30時間)		30時間		
	疾病理解の看護学的視点	1単位 (15時間)	15時間			
社会保障制度 健康支援と	健康管理論	1単位 (30時間)	30時間			
	医療と経済	1単位 (15時間)	15時間			
	公衆衛生学	1単位 (30時間)			30時間	
	社会福祉論	1単位 (15時間)			15時間	
	看護関係法令	1単位 (15時間)				15時間
	生命倫理	1単位 (15時間)			15時間	

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	設定理由	科目目標	教育内容
解剖学 (45時間)	疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するために、人体の形態・構造（解剖学）と機能（生理学）を理解する。 人体にどのような意味をもち、生命維持にどのように	1. 人体の形態と構造を理解する。 2. 各器官の役割を理解する。	1. 人体の基本単位 2. 人体の特徴と成立 1) 骨格系 2) 筋系 3) 循環器系 4) 神経系 5) 呼吸器系 6) 消化器系 7) 泌尿器系 8) 内分泌系 9) 生殖器系 10) 感覚器系
生理学 (45時間)	関与しているかを理解する。人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて実践できる思考を養う。	人体の構造をふまえて、その機能について理解する。	1. 心臓と循環、血液・体液 2. 呼吸 3. 栄養と消化・吸収 4. 体温 5. 排泄 6. 内分泌 7. 神経

生化学 (15 時間)	体内でさまざまな物質が変化し、協働しながら身体の健康を維持するしくみを学ぶ。	生体内に存在する化学物質の作用機序を理解する。	1. 代謝の基礎 2. 生体内の物質代謝 3. 遺伝子 4. ホルモンとシグナル伝達 5. がん
栄養学 I (15 時間)	栄養が、生体が必要な成分を体外から取り入れて、発育、成長および生命の維持に利用され、健全な生命活動を営むことを理解する。	栄養素の生体内における消化吸収、代謝の生理的役割を理解する。	1. 人間栄養学と看護 2. 栄養素の種類とはたらき 3. 食物の消化と吸収 4. エネルギー代謝 5. 食品と栄養 6. ライフステージの栄養
栄養学 II (15 時間)	栄養学 I の学習内容をふまえて、各発達段階、病態に応じた治療食について理解する。	病態を考慮した適正な栄養補給を理解し、病態に応じた治療食について理解する。	1. 栄養ケアマネジメント 2. チームで取り組む栄養管理 3. 食事療法
薬理学 (30 時間)	薬物療法の基礎知識として、薬物の特徴、作用機序、人体への影響と薬物の管理について理解する。	薬物療法が安全に実施されるための薬物の特徴、作用機序、人体への影響と薬物の管理について理解する	1. 薬理学の基礎知識 2. 抗感染症薬 3. 抗がん薬 4. 免疫治療薬 5. 抗アレルギー、抗炎症薬 6. 末梢での神経活動に作用する薬物 7. 中枢神経系に作用する薬物 8. 循環器系に作用する薬物 9. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 10. 物質代謝に作用する薬物
病理学 (30 時間)	疾病の成り立ちを理解し、生体におこる異常についての基礎的知識を学び、対象の健康上の問題を解決するための基礎とする。	疾病による対象の身体的変化を理解するため、病的な状態のメカニズムを理解する。	1. 病因論 2. 細胞とその変化 3. 修正と再生 4. 循環障害 5. 炎症 6. 腫瘍 7. 免疫
疾病論 I (30 時間)	病理学の基礎知識をふまえて、系統別疾患の病態・検査・診断・治療を学び、疾	主たる疾患について、病態・検査・診断・治療の全般を理解する。	1. 呼吸器疾患 2. 循環器疾患 3. 消化器疾患

疾病論Ⅱ (30 時間)	患をもつ対象の理解につなげる。		1. 内分泌・代謝疾患 2. 脳・神経疾患 3. 運動器疾患 4. 歯・口腔疾患
疾病論Ⅲ (30 時間)			1. 血液・造血器疾患 2. 眼疾患 3. 耳鼻咽喉疾患 4. 腎臓疾患、膠原病疾患 5. 泌尿器疾患 6. 皮膚疾患 7. 女性生殖器疾患
疾病論Ⅳ (30 時間)			1. 精神疾患 2. 小児の疾患
微生物学 (30 時間)	微生物に関する基礎的知識を学び、病原微生物が人体へ及ぼす影響について理解する。さらに、感染症の原因となる微生物の特徴と人体に及ぼす影響について理解し、感染と発病、感染症の予防と治療について理解する。	1. 微生物の生態・種類と特徴、人体に及ぼす影響と対応について理解する。 2. 病原体と感染症との関係や感染予防、治療について理解する。	1. 微生物学の基礎 2. 感染とその防御 3. おもな病原微生物
治療総論 (30 時間)	看護者は、対象者の疾病の回復に伴う援助を行う。疾病の回復促進の手段である治療検査について理解する。	1. 主な治療法の内容、目的、方法、内容について理解する。 2. 主な臨床検査の種類と方法について理解する。	1. 治療のねらい、概要 2. 手術療法 3. 麻酔法 4. 救急医療 5. 放射線療法 6. リハビリテーション療法 7. 臨床検査
疾病理解の看護学的視点 (15 時間)	疾病の成り立ちと関与する因子を理解し、対象の状況や状態を生む背景や生活に及ぼす影響を考える。	疾病の成り立ちと関与する因子を理解し、対象の状況や状態を生む背景や生活に及ぼす影響を考える。	1. 疾病の成り立ちに関与する因子と予防 2. 主な疾患の身体に起こっている事への理解 3. 主な疾患の症状、日常生活への影響

<p>健康管理論 (30 時間)</p>	<p>人間の健康問題を広い視野でとらえ人々が健康を営むための仕組みについて理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人が自らの健康づくりをするための基礎的な知識を理解する。 2. 現状における健康管理システムや諸施策を理解し集団の健康水準を高めるための役割を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念、公衆衛生の概念 2. 疫学・健康統計指標 3. 生活習慣病の現状と対策 4. 主要疾患の疫学と予防対策 5. 地域の保健予防システム 6. 高齢者・成人の健康管理 7. 母子の健康管理 8. 職場の健康管理
<p>医療と経済 (15 時間)</p>	<p>医療サービスを理解し、効果的で効率的な医療の提供を理解することで、多様な場で生活する人々への看護の実践につなげる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度のしくみを理解する。 2. 地域包括ケアの概要を理解する。 3. 医療における経済学的視点を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療サービスの基本的知識 2. わが国の社会保障制度 3. これからの社会保障制度
<p>公衆衛生学 (30 時間)</p>	<p>公衆衛生学の基本である疾病予防と健康増進について学び、その中での看護の役割を理解する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康づくりに果たす公衆衛生の役割を理解する。 2. 人間を取り巻く環境問題を理解する。 3. 生活者の健康推進や予防活動を行うための看護師の役割を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念 2. 感染症とその予防対策 3. 国際保健 4. 地域における公衆衛生の実践 5. 学校・職場と健康 6. 健康危機管理・災害保健
<p>社会福祉論 (15 時間)</p>	<p>社会福祉の概念や生活者の健康を保障する制度を学び、社会資源としてのソーシャルサポートシステムの意義の理解と活動の実際、他職種との連携を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々が生活者として生きる上で必要な社会制度、政策、団体、人材などのサポートシステムを理解する。 2. 社会資源としてのソーシャルサポートシステムの意義の理解と活動の実際、他職種との連携について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度と社会福祉 2. 医療保障 3. 介護保障 4. 所得保障 5. 公的扶助 6. 社会福祉の分野とサービス 7. 社会福祉実践と医療・看護との連携

<p>看護関係法令 (15 時間)</p>	<p>生活者の健康生活の維持、向上に対応した保健医療制度の基礎的知識を学ぶ。また、看護師という社会的責任がある者として常に「法」を意識して業務を遂行するための法令について理解する。</p>	<p>人々の健康生活を維持・向上させるための保健医療制度の体系を理解すると共に、看護業務を遂行するための法令について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 2. 薬務法 3. 看護法 4. 医師法・医療法 5. 保健衛生法 6. 環境衛生法・社会保障法 7. 労働法と社会基盤整備
<p>生命倫理 (15 時間)</p>	<p>人間の生命倫理に関する様々な問題を医療や看護の視点から考え、看護職としての倫理的判断に基づいて実践する責任と自覚を養う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間尊重、生命尊重、多様な価値観について理解する。 2. 人間を尊重する態度や姿勢を身につける 3. 人間の尊厳を現在の諸問題と関連して考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学の視点からみた生命倫理 2. 医療の視点からみた生命倫理 3. 看護の視点からみた生命倫理

科目名 解剖学	時間数 2単位 45時間 時期 1年次前期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 生活する人々の疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するために、人体の形態・構造を理解する。 1. 人体の形態・構造を理解する。 2. 各器官の役割を理解する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護ができる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 解剖生理学のための基礎知識 2-6. 骨格と筋 7-9. 循環器、血液、リンパ系 10. 神経系の構造と機能 11. 脊髄と脳 12. 脊髄神経と脳神経 13-14. 運動・感覚機能と伝導路 15-16. 消化と吸収 17. 呼吸器 18-19. 体液の調整、内臓機能の調整 20. 生殖・発生の仕組み 21-22. 身体機能の防御と適応	講義	
23. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 ぬりえで学ぶヒトのからだ パーソン書房 史上最強カラー図解プロが教える人体のすべてがわかる本 ナツメ社 「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書 高野廣子 解剖生理学 南山堂 横地千仞 カラーアトラス人体 解剖と機能 医学書院 高橋長雄 からだの地図帳 講談社		
受講上の注意		

科目名 生理学	時間数 2単位 45時間 時期 1年次前期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するために、人体の機能を系統立てて理解し、それが人体全体にどのような意味をもち、生命維持にどのように関与しているかを理解する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護ができる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容	方法	備考
1. 生理学とは 2-3. 体液、血液 1) 血液 2) 体液 3) 電解質 4-5. 循環 1) 心臓の働き 2) 心機能の調節 3) 心音 4) 血圧 5) 心電図 6) 循環系 6-7. 呼吸 1) 呼吸器官の形態 2) 呼吸運動 3) 正常呼吸と異常呼吸 8-10 消化器 1) 咀嚼と唾液 2) 嚥下運動 3) 胃 4) 膵臓 5) 肝臓 6) 小腸 7) 大腸 11. 体温 12. 排泄 1) 腎臓の機能 2) 尿 13-14. 内分泌 1) 内分泌性調節の特徴 2) 視床下部一下垂体 3) 甲状腺 4) 上皮小体 5) 膵臓 6) 副腎 7) 性腺 15. 筋肉 16-17. 神経 18-19. 感覚 1) 感覚の基礎 2) 視覚 3) 聴覚 4) 平衡感覚 5) 味覚と嗅覚 6) 体性感覚と内臓感覚 20-22. 自律神経系、中枢神経系、末梢神経系	講義	
23. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 生化学	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 人々の健康の維持・増進、疾病からの回復のために、生体を構成する物質の構造・代謝・機能および異常を理解する。 1. 生体にはどのような化学物質があり、それらが生体をどのようにつくっているのかを理解する。 2. 生体における栄養・代謝・代謝産物の排泄など様々な働きが化学物質のどのような反応によってなされているのかを理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護ができる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 3. 糖質の構造・機能・代謝 4. 脂質の構造・機能・代謝 5. タンパク質の構造・機能・代謝 6. 遺伝情報 7. シグナル伝達・がん	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 生化学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 栄養学 I	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 1. 栄養が、生体が必要な成分を体外から取り入れて、発育・成長および生命の維持に利用され、健全な生命活動を営むことを理解する。 2. 栄養素の生体内における消化吸収、代謝の生理的役割を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じて実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 人間栄養学と看護 栄養の意味や保健医療との関連・食事における看護師の役割 2. 栄養素の種類とはたらき 1 三大栄養素のはたらき 3. 栄養素の種類とはたらき 2 ビタミン、ミネラル、食物繊維、水 4. 食物の消化と栄養素の吸収 栄養素の代謝、代謝産物の排泄 5. エネルギー代謝 食品のエネルギー、体内エネルギー 6. 食品と栄養 食事摂取基準・食品成分表 7. ライフステージの栄養 健康づくりと食生活・国民健康栄養調査結果	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 栄養学Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 1. 病態を考慮した適正な栄養補給を理解し、各発達段階、病態に応じた治療食について理解する。 2. 栄養学Ⅰの学習内容をふまえて、各発達段階、病態に適した治療食について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定 2. 医療・福祉野庭における栄養食事療法 病院食・栄養補給法 3. 経腸栄養製品と静脈栄養剤 やせ、低栄養患者の食事療法・循環器疾患患者の食事療法 4. 消化器疾患患者の栄養食事療法 5. 糖尿病の栄養食事療法 糖尿病食品交換表 6. 栄養、代謝疾患患者の栄養食事療法 腎疾患患者の食事療法 7. 血液疾患、食物アレルギー、骨粗鬆症、摂食低下患者の栄養食事療法、 先天性代謝異常、術前・術後、がん患者の栄養食事療法	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会・文光堂		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 栄養学 医学書院		
受講上の注意		

科目名 薬理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 薬剤師*
科目のねらい・授業目標 薬物療法が安全に実施されるための薬物の特徴、作用機序、人体への影響と薬物の管理について理解することができる		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 薬理学とは何か 2－3. 薬理学の基礎知識 4. 抗感染症薬 5. 抗がん薬 6. 免疫治療薬 7. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 8. 末梢での神経活動に作用する薬物 9. 中枢神経系に作用する薬物 10. 循環器系に作用する薬物・救急の際に使用される薬物 11. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 12. 物質代謝に作用する薬物 13. 皮膚科用薬・眼科用薬 14. 漢方薬・消毒薬・輸血製剤・輸血剤	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 薬理学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 病理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 病理担当医師*
科目のねらい・授業目標 疾病による対象の身体的な変化を理解するため、病的な状態のメカニズムを理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容 1－2. 病理学とは 1) 生体の反応について 3. 病因論 (疾病の原因と成り立ちについて) 1) 病気の種類 2) 内因 3) 外因 4－5. 細胞とその変化 1) 細胞・組織・臓器 2) 細胞の障害について 3) 変性・壊死・アポトーシス 4) 萎縮 5) 代謝異常と物質沈着 6. 修正と再生 7－8. 循環障害 1) 虚血と梗塞 2) 血栓 3) 塞栓症 4) 充血・うっ血・出血 5) 浮腫 9－10. 炎症 1) 炎症の定義 2) 循環障害と滲出 3) 増殖と肉芽組織 4) さまざまな炎症 11－13. 腫瘍 1) 概説 2) 良性腫瘍と悪性腫瘍 3) 腫瘍の分類 4) 腫瘍の原因 5) 病理発生、早期発見そして診断 14. 免疫とアレルギー 1) 免疫とは 2) 液性免疫と抗体 3) 細胞性免疫	方法 講義	備考
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 よくわかる専門基礎講座 病理学 金原出版		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 疾病論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 医師*	
科目のねらい・授業目標 病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもつ対象の理解につなげる。			
DP との関連 1. 生命を尊重し看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる			
	授業内容	方法	備考
	1－3. 呼吸器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
	4－5. 呼吸器疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
	6－8. 循環器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
	9－10. 循環器疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
	11－13. 消化器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
	14－15. 消化器疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 医学書院			
参考図書			
受講上の注意			

科目名 疾病論Ⅱ	時間数 1単位 30時間 時期 2年次前期	講義担当者 医師・歯科医師*
科目のねらい・授業目標 病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもつ対象の理解につなげる。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容	方法	備考
1－5. 内分泌・代謝疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
6－7. 脳・神経疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
8－10. 脳・神経疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
11－13. 運動器疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
14－15. 歯・口腔疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 疾病論Ⅲ	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 医師*
科目のねらい・授業目標 病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもっと対象の理解につなげる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容	方法	備考
1－2. 血液・造血器疾患の病態、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
3－4. 眼疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
5－6. 耳鼻咽喉疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
7－9. 腎臓疾患・膠原病疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
10－11. 泌尿器疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
12－13. 皮膚疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
14－15. 女性生殖器疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 8 腎臓・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 11 膠原病 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 13 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院		
参考図書		
受講上の注意		

科目名 疾病論Ⅳ	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 医師*
科目のねらい・授業目標 病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもっと対象の理解につなげる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる		
授業内容	方法	備考
1～5. 精神疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 疾患と病態生理、症状、診断 (1) 精神をやむことと生きること (2) 精神症状論と状態像 (3) 精神障害の診断と分類 2) 検査 3) 精神科での治療 (1) 精神科における治療 (2) 精神療法 (3) 薬物療法 (4) 電気けいれん療法その他 (5) 環境療法・社会療法	講義	
6～14. 小児の疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 出生前診断・染色体異常 2) 新生児の疾患 3) 呼吸器疾患 4) 循環器疾患 5) 悪性新生物 6) 血液・造血器疾患 7) 腎・泌尿器疾患 8) 神経疾患 9) 代謝性疾患 10) 免疫・アレルギー疾患 11) 感染症 12) 事故・外傷 13) 運動器疾患 14) 精神疾患	講義	
15. 小児の疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 外科的疾患（消化器疾患を含む）	講義	
使用する図書 系統看護学講座 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 微生物学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学・短大講師 または検査技師＊	
科目のねらい・授業目標 微生物に関する基礎的知識を学び、病原微生物が人体へ及ぼす影響について理解する。さらに、感染症の原因となる微生物の特徴と人体に及ぼす影響について理解し、感染と発病、感染症の予防と治療について理解する。 1. 微生物の生態・種類と特徴、人体に及ぼす影響と対応について理解する。 2. 病原体と感染症との関係や感染予防と治療について理解する。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。			
回	授業内容	方法	備考
1-3. 微生物学の基礎 1) 微生物学の性質 2) 細菌の性質 3) ウイルス・真菌の性質 4-9. 感染とその防御 1) 感染と感染症 2) 感染に対する生体防御機構 3) 滅菌と消毒 4) 感染症の検査と診断 5) 感染症の治療 6) 感染症の現状と対策 10-14. おもな病原微生物 1) 細菌感染症 2) ウイルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫と衛生動物	講義		
15. 試験		筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 微生物学 医学書院			評価方法 筆記試験
参考図書			
受講上の注意			

科目名 治療総論	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 医師* リハビリ関係者* (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士) 検査技師*
科目のねらい・授業目標 1. 主な治療法の概念、目的、方法、内容について理解する。 2. 主な臨床検査の種類と方法について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる		
授業内容	方法	備考
1. 治療とは 1) 治療のねらい 2) インフォームドコンセント 3) 治療法 4) 治療法の種類	講義	医師
2. 手術療法 3. 麻酔法 (麻酔管理) 4. 緩和医療・ペインクリニック 5. 救急医療・心肺蘇生	講義 講義・演習	麻酔科医師 BLS・AED
6-8. 放射線療法 1) 放射線療法とは 2) 放射線療法の目的 3) 放射線療法の種類と特徴 4) 放射線療法の適応 5) 放射線療法のすすめ方 6) 放射線障害と放射線防御	講義	放射線科医師
9-12. リハビリテーション療法 1) リハビリテーション医学とは 2) リハビリテーション療法の目的 3) リハビリテーション療法の種類と特徴 (1) 理学療法 (2) 作業療法 (3) 言語療法	講義	リハビリテーション関係者 (理学療法士) (作業療法士) (言語聴覚士)
13-15. 臨床検査 1) 臨床検査の基礎知識 2) おもな臨床検査 3) 臨床検査の流れと看護師の役割	講義	検査技師
使用する図書 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 健康管理論	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学講師 保健師*
科目のねらい・授業目標 人間の健康問題を広い視野でとらえ人々が健康を営むための仕組みについて学ぶ。 1. 個人が自らの健康づくりをするための基礎的な知識を理解する。 2. 現状における健康管理システムや諸施策を理解し、集団の健康水準を高めるための役割を理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 健康の概念、公衆衛生の概念 2. 社会的公正と健康格差の是正、公衆衛生・予防医学の歴史 3－4. 疫学・統計学 5. 人口静態統計、保健統計指標 6. 生活習慣の現状と対策 7－9. 主要疾患の疫学と予防対策 (がん・循環器疾患・代謝性疾患・骨・関節疾患・精神疾患・その他) 10－11. 地域の保健予防システム 12. 高齢者・成人の健康管理 13. 母子の健康管理、児童虐待、学校の健康管理 14. 職場の健康管理	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 基礎から学ぶ健康管理論 南江堂 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 医療と経済	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 医療サービスの基本を理解し、医療の提供のしくみを理解することで、多様な場で生活する人々への看護の実践につなげる。 1. 社会保障制度のしくみを理解できる。 2. 地域包括ケアの概要を理解する。 3. 医療における経済的視点が理解できる。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 医療サービスの基本的知識 1) 医療サービスの特殊性 2) 保険とは 3) 国民皆保険制度の意義 4) 医療サービスの規制	講義	
2－5. わが国の社会保障制度 1) 医療保険制度 (1) 医療保険のしくみ (2) 公費負担医療制度 (3) 診療報酬制度 2) 介護保険制度 (1) 介護保険のしくみ (2) 介護保険受給までの流れ (3) ケアマネジメント 3) 社会福祉制度 (1) 障害児・障害者にかかわる法、施策 (2) 児童にかかわる法、施策	演習 (GW・発表会)	
6－7. 地域包括ケアシステムと地域共生社会について (1) 地域包括ケアシステムとは (2) 地域包括ケアを支える組織と専門職種 (3) 地域医療構想 (4) 地域共生社会 (5) 医療者がもつべきコスト意識	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 医療概論 医学書院		評価方法 筆記試験 60 点 課題 40 点
参考図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		

基礎から学ぶ健康管理概論	南江堂	
受講上の注意		

科目名 公衆衛生学	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 保健師もしくは 保健関係担当者*
科目のねらい・授業目標 公衆衛生学の基本である疾病予防と健康増進について学び、その中での看護の役割を理解する。 1. 生活者の健康づくりに果たす公衆衛生の役割が理解できる。 2. 人間をとりまく環境問題が理解できる。 3. 生活者の健康推進や予防活動を行うための看護師の役割が理解できる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 公衆衛生とは 2. 公衆衛生のエッセンス 3. 公衆衛生の活動対象 4. 公衆衛生のしくみ 5. 集団の健康をとらえるための手法：疫学・保健統計 6. 環境と健康 7－9. 感染症とその予防対策 10. 国際保健 11－13. 地域における公衆衛生の実践 1) 母子保健 2) 成人保健 3) 高齢者保健 4) 精神保健 5) 障害者保健・難病保健 14. 学校と健康・職場と健康 15. 健康危機管理・災害保健	講義	
使用する図書 系統看護学講座 公衆衛生学 医学書院		評価方法 *時間外 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 社会福祉論	時間数 1 単位 15 時間 時期 3 年次前期	講義担当者 社会福祉士または ソーシャルワーカー*
科目のねらい・授業目標 社会福祉の概念や生活者の健康を保障する制度を学び、社会資源としてのソーシャルサポートシステムの意義の理解と活動の実際、多職種との連携を学ぶ。 1. 人々が生活者として生きる上で必要な社会制度、政策、団体、人材などのサポートシステムを理解する 2. 社会資源としてのソーシャルサポートシステムの意義の理解と活動の実際、他職種との連携について理解する		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる		
授業内容	方法	備考
1. 社会保障制度と社会福祉 2. 医療保障 医療保障制度の沿革、医療保障制度の構造と体系 健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度 3. 介護保障 介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史 介護保険制度の概要、介護保険制度の課題と展望 4 所得保障 所得保障制度のしくみ、年金保険制度、社会手当、労働保険制度 5 公的扶助 貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度のしくみ 低所得者対策、近年の動向 6. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉 7. 社会福祉実践と医療・看護との連携	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 看護関係法令	時間数 1 単位 15 時間 時期 4 年次前期	講義担当者 大学講師、 医師、薬剤師、 保健師、看護師 } *
科目のねらい・授業目標 生活者の健康生活の維持、向上に対応した保健医療制度の基礎的知識を学ぶ。また、看護師という社会的責任がある者として常に「法」を意識して業務を遂行するための法令について理解する。 1. 人々の健康生活を維持・向上させるための保健医療制度の体系を理解すると共に、看護業務を遂行するための法令について理解する。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
	授業内容	方法 備考
1. 法の概念 2. 薬務法 3. 看護法 4. 医師法・医療法 5. 保健衛生法 6. 環境衛生法・社会保障法 7. 労働法と社会基盤整備	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 看護六法 新日本法規		評価方法 筆記試験
参考図書 事例でなっとく看護と法 メディカ出版 看護学生のための法学 日本看護学校協議会共済会		
受講上の注意		

科目名 生命倫理	時間数 1 単位 15 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 大学講師 医師* 看護師*
科目のねらい・授業目標 人間の生命倫理に関するさまざまな問題を倫理学および医療や看護の視点から考え、看護職としての倫理的判断に基づいて実践する責任と自覚を養う 1. 人間尊重、生命尊重、多様な価値観について理解できる 2. 人間を尊重する態度や姿勢を身につける 3. 人間の尊厳を現在の諸問題と関連して考える		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に応じ、実践することができる 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる		
授業内容	方法	備考
1－2. 倫理学の視点からみた生命倫理 1) 生命倫理の形成：患者の意思の尊重 2) 生命倫理の展開：生命倫理の原則の意義と限界 3) 医療をめぐる諸問題と法的解釈	講義	大学講師
3－4. 医療の視点からみた生命倫理 1) 生命科学の進歩と医療 2) 患者の権利とインフォームドコンセント 3) 医療をめぐる生命倫理の課題（臓器移植、遺伝子治療など）		医師
5－8. 看護の視点からみた生命倫理 1) 看護における倫理的判断 2) 人間にとっての死、死生観 3) 看護の場面で遭遇する倫理的問題		看護師
使用する図書 看護学テキストN i C E 看護倫理 南江堂		評価方法 課題提出
参考図書 千代豪昭他 学生のための医療概論 医学書院 ジョンセン著、細見博志訳 生命倫理学の誕生		
受講上の注意		

X 專門分野

専門分野

目的：あらゆるライフサイクルや健康レベルにある対象に、多様な場で看護が実践できる基礎的能力を養う。

- 目標：
1. 看護を実践するための必要な基礎的知識、技術及び態度を身につける。
 2. 地域で暮らす人々の理解とその健康ニーズを知り、地域・在宅看護の基礎を理解する。
 3. すべての健康レベルと生活状況のなかで、人間を理解し対象のニーズに多様な場で対応できる看護の基本を身につける。
 4. 看護の知識と技術の統合を図り、臨床の実践に近い環境で看護を提供する方法を理解する。

構成： 基礎看護学
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践

* 印は実務経験のある担当者である。

基礎看護学

基礎看護学では、看護の基本となる概念や基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて学ぶ。高齢多死社会化がすすみ、看取りの場が医療施設から在宅や福祉施設などへと変化しており、看護師の活動の場の多様化が推し進められている。多様な看護の場で活躍できるように、看護の対象を生活者として捉え、人間関係を基盤とした、科学的な思考のプロセスに基づいた看護実践の基本を学ぶ。

まず、看護の概念として、看護の対象である人間、健康、環境について学び、看護とは何かを考える。また、看護の目的を達成するための看護の役割・機能を理解する。

看護実践を学ぶ第1歩として看護技術について理解する。そしてすべての看護実践の基盤となるコミュニケーション技術、対象者の意思決定や治療への主体的な参画を支援する学習支援、感染予防の技術、安全の技術について講義・演習を通して習得する。また、人間の生活行動に大きく影響を与える環境について、人間と環境との関係や療養環境の調整の方法を講義・演習を通して学習する。

適切な看護を実践するために必要な看護過程のプロセスを理解し、看護過程の基本的な展開技術を養う。また、解剖生理学の知識を活用し、臨床推論の考え方、フィジカルアセスメント技術を学び、対象を把握するための方法を身につける。臨床判断の気づくトレーニングを取り入れた演習を行い、知識をつなげる学習をすすめる。看護形態機能学の視点で日常生活行動やアセスメントの視点を学び、日常生活援助技術を習得する。

診療の補助における看護の役割と対象にとって診療の補助が安全・安楽に行われるための技術を習得する。

目的：看護に必要な基礎的知識、技術および態度を学ぶことで看護を実践できるための基礎的能力を養う。

- 目標：1. 看護の対象である人間について理解し、看護とは何かを考え看護の本質を理解する。また専門職としての倫理及び看護の役割を理解する。
2. 対象の理解と看護実践の基礎となる技術と態度を習得する。
3. 看護における研究の意義と方法を理解し、研究的態度を養う。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第 二 看 護 学 科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
看護学概論Ⅰ	1単位（30時間）	30時間			
看護学概論Ⅱ	1単位（15時間）	15時間			
共通基本技術Ⅰ	1単位（30時間）	30時間			
共通基本技術Ⅱ	1単位（30時間）	30時間			
フィジカルアセスメント	1単位（30時間）	30時間			
看護過程	1単位（30時間）		30時間		
臨床判断	1単位（15時間）		15時間		
日常生活援助技術Ⅰ	1単位（15時間）	15時間			

日常生活援助技術Ⅱ	1 単位 (30 時間)	30 時間			
日常生活援助技術Ⅲ	1 単位 (30 時間)	30 時間			
診療の補助技術Ⅰ	1 単位 (30 時間)		30 時間		
診療の補助技術Ⅱ	1 単位 (15 時間)		15 時間		
臨床看護総論	1 単位 (30 時間)		30 時間		
看護研究	1 単位 (30 時間)			30 時間	
基礎看護学実習Ⅰ	1 単位 (45 時間)		45 時間		
基礎看護学実習Ⅱ	2 単位 (90 時間)		90 時間		

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
看護学概論Ⅰ	健康の意義および看護の本質を理解し、看護とは何かを考え、対象である人間について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは 2. 看護の対象の理解 3. 看護と健康 4. 看護の提供者 5. 看護における倫理 6. 看護の提供のしくみ 7. 医療安全と医療の質保証 8. 広がる看護の活動領域
看護学概論Ⅱ	看護活動の実際から看護の役割と機能を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の役割と機能 2. 看護活動の実際 3. 病院における看護 4. 看護活動の実際の見学
共通基本技術Ⅰ	看護技術の特徴と範囲を理解し、看護技術の基本を習得する重要性を考える。また、療養生活の環境を調整する重要性と快適な環境調整のための基礎的知識を理解し、療養生活環境を整える技術を習得する。看護実践における感染防止の基礎的知識・方法や療養生活の安全確保や医療安全の基礎的知識を理解し、必要な技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは 2. 環境の基礎知識 3. 快適な療養環境・安全な療養環境・ベッドメイキング・臥床患者のリネン交換 4. 感染とその予防の基礎知識 5. スタンダードプリコーション 6. 感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌 7. 無菌操作 8. 感染性廃棄物の取り扱い 9. 安全確保の基礎知識
共通基本技術Ⅱ	医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、コミュニケーションの基本的な方法を習得する。看護実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程

	における対象との相互関係の成立、発展させるための理論と技術を理解する。看護における学習支援の目的と意義を理解し、健康を支える学習支援のあり方を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 3. 効果的なコミュニケーションの実際 4. 医療チームにおける専門家としてのコミュニケーション技術 5. コミュニケーション障害への対応 6. 看護における学習支援 7. 健康に生きることを支える学習支援 8. 健康状態の変化に伴う学習支援 9. 学習支援の実際
フィジカルアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、ヘルスアセスメントによって得られた結果を実際のケアに結びつけていく態度を養う。バイタルサインの測定の観察方法を習得する。系統別フィジカルアセスメントの実際を理解し、必要な技術を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメント 3. バイタルサイン測定 4. 身体計測 5. 系統別フィジカルアセスメントの実際
看護過程	適切な看護を実践するために必要な看護過程のプロセスを理解し、看護過程の基本的な展開技術を養う。看護記録の意義や種類、看護記録の取り扱いについて理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは何か 2. 看護過程の5つの構成要素 3. 看護過程の展開 4. 看護記録の意義と目的、構成
臨床判断	臨床判断の考え方を理解し、適切な看護を実践するために必要な臨床判断モデルを理解する。臨床判断モデルに基づいた「気づく」力を育む。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論・臨床判断の考え方 2. 「気づき」トレーニング 3. 「気づく」力を育む看護実践
日常生活援助技術 I	活動の意義を理解し、対象が健康な生活を送るために必要な援助技術を習得する。睡眠・休息の意義や対象が健康な生活を送るために必要な援助を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的活動の基礎知識 2. 援助の実際 3. 睡眠・休息援助の援助
日常生活援助技術 II	食事の意義や対象が健康な生活を送るために必要な援助技術を取得する。排泄の意義や対象が必要な援助技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の援助の基礎知識 2. 食事介助の実際 3. 非経口的栄養摂取の援助の実際 4. 自然排尿および自然排便に関する基礎知識 5. 自然排尿および自然排便の介助の実際 6. 自然排尿ができない場合の医療上の処置

		7. 排便を促す援助の実際
日常生活援助技術 III	衣服を用いることの意義を理解し、衣生活の援助技術を習得する。清潔の意義を理解し、清潔保持に関する援助技術を習得する。	1. 衣生活援助の基礎知識 2. 寝衣交換の実際 3. 清潔の援助の基礎知識 4. 清潔援助のアセスメント 5. 清潔援助の実際
診療の補助技術 I	与薬に伴う援助の意義を理解し、必要な基本的知識を理解すると共に、技術を習得する。輸血に伴う援助技術について理解する。	1. 与薬の基礎知識 2. 薬物の基礎知識 3. 与薬時の援助と方法 4. 注射の基礎知識 5. 注射の援助と方法 6. 点滴静脈内注射 7. 輸血管理
診療の補助技術 II	診察・検査における看護の役割と対象にとって診察・検査が安全・安楽に行われるための技術を理解する。創傷管理に伴う技術を理解する。	1. 診察・検査・処置の介助 2. 検体検査と生体情報モニタリング 3. 創傷管理技術
臨床看護総論	健康レベルの対象の特徴と必要な看護を理解する。また、主要な症状を示す看護を理解し、症状の緩和や治療に伴う看護に必要な技術の方法を習得する。	1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 2. 健康状態の経過に基づく看護 3. 主要症状における看護 4. 呼吸・循環を整える技術 5. 安楽確保の技術
看護研究	看護研究の意義とプロセス、クリティークの知識を理解し、研究的態度を培う。	1. 看護研究とは 2. 看護研究のリサーチクエスション 3. 文献検索 4. 倫理的配慮 5. 研究デザイン 6. データの収集・分析 7. 研究論文のクリティーク 8. 研究計画書の作成
基礎看護学実習 I	患者との関わりを通して、関係構築のためのコミュニケーションの基本を学ぶ。患者の状態の変化に応じた日常生活援助を指導者と共に実施できる。	1. 患者の療養環境及び看護活動の場 2. 受持患者とのコミュニケーション 3. 指導者と共に日常生活援助の実施 4. コミュニケーション場面の振り返り

基礎看護学実習Ⅱ	<p>患者の状況や状態から生活のニーズを判断し、適切な日常生活援助を実施することができる。患者との関わりから、人間関係を築くための自己のコミュニケーションを振り返ることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の生活上のニーズの判断 2. 患者の状態に応じた日常生活援助 3. 援助の振り返り 4. 患者・家族との良好な関係
----------	---	---

地域・在宅看護論

看護を取り巻く環境は時代とともに変化しており、国民の意識も安全・安心の重視とともに、医療の質を重視する方向に転換してきている。また、医療から地域へと対象の捉え方がシフトしている社会のニーズに対応し、看護においても活躍の場を広げ、質の高い看護の提供が求められている。地域包括ケアシステム等を促進するために、地域で暮らす人々とパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する必要がある。

1年生の早い時期から基礎看護学と並行して健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を理解する科目として、「地域と暮らし」を学習する。地域と暮らしを支えるためには、人々の暮らす地域と環境を理解することが重要である。また、「生活」の視点をもって「人」をみるためには、コミュニケーションスキルを高める必要がある。1年次にフィールドワークを通じて地域に出ることで、地域に暮らす人々と交流し、そこで暮らす様々な世代の生活と健康について考えることで生活の視点をもつ科目立てとする。家族看護では、家族看護を実践するために必要な知識・援助方法を学び、家族看護を理解する。地域・家族看護総論では、地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解するために、暮らしを支える場、法・制度、施策、活用方法などを学ぶ。また、対象と看護の場について学び総論での学びを援助論にて発展させる。地域で暮らす人々の生活を支える技術と看護のアセスメント、医療技術を学び、地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントと看護を理解することを目指す。

地域・在宅看護論実習では、看護の対象である地域に暮らす人々が生活し続けるための支援を学ぶために、地域に密着した看護活動の場で利用者や家族の自立・自律支援に向けた生活支援の実際を理解する。必要な時に必要なサービスを利用しながら自分が暮らしたい場所で生活するための支援を学ぶ。

目的：地域で暮らす人々と場を理解し、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために必要な看護の基礎的能力を養う。

目標：

1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する
2. 地域で生活する人々と、その家族の看護について理解する
3. 地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解する
4. 暮らしを支える看護に必要な法・制度・施策を理解し、活用方法を考える
5. 看護が提供される多様な場を理解する
6. 健康と暮らしを支える看護を理解する
7. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントを理解する

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
地域と暮らし	1単位 (15時間)	15時間			
家族看護論	1単位 (15時間)		15時間		
地域・在宅看護総論	1単位 (30時間)		30時間		
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1単位 (30時間)			30時間	
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1単位 (30時間)			30時間	
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1単位 (30時間)			30時間	
地域・在宅看護論実習Ⅰ	2単位 (64時間)				64時間
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2単位 (64時間)				64時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
地域と暮らし	<p>地域で暮らしている個人及び家族の健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を深く理解する。</p> <p>グループ活動を通して石川県の地域を知り、暮らしや人々との繋がりがあることを理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしの基盤としての地域 2. 地域で暮らす地域・在宅看護の対象 3. 地域（石川県）に暮らす人々の生活
家族看護論	<p>わが国は少子・高齢化が進み様々な社会問題に直面している。家族形態も変化している中で家族を看護の対象として理解する必要がある。家族を捉える視点や理論に基づいた家族看護の考え方、家族の力を発揮できる支援方法を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を看護するということ 2. 看護学における家族の理解 3. 家族看護過程 4. 家族への看護アプローチ
地域・在宅看護総論	<p>地域・在宅看護論の対象、健康と暮らしを支える看護、看護が提供される多様な場を理解する。</p> <p>地域における看護職の役割など基礎的能力を養う。そして、地域で暮らし続けることを支援するための仕組みやマネジメント、法と制度、施策を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護論の対象 2. 看護が提供される多様な場 3. 地域包括ケアシステムの意義と概念 4. 在宅看護にかかる法令・制度とその活用方法 5. 地域で暮らし続けるための支援

<p>地域・在宅 看護援助論 I</p>	<p>地域・在宅看護の対象者と家族への理解を深める。そして、地域・在宅看護で必要とされる面接技術、観察及びアセスメントについて理解する。また、在宅看護における生活援助技術について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの仕組み 2. 地域で生活する人々の生活を支える在宅看護技術
<p>地域・在宅 看護援助論 II</p>	<p>健康レベルに応じた看護、地域・在宅看護で必要とされる医療処置を理解する。</p> <p>地域で暮らす人々と家族の健康の保持増進・疾病の予防に関わる地域看護活動について理解する。</p> <p>生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成のあり方を理解する。地域で暮らす人々と家族が、その人らしく生活するための生活援助技術と医療処置や支援の実際を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らし続けるための支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で生活する人々と家族 2) 在宅リハビリテーション 3) 終末期にある対象者とその家族 2. 医療処置の実際
<p>地域・在宅 看護援助論 III</p>	<p>地域で療養生活を送る人と、家族の看護に必要なアセスメントを生活者の視点で考える。療養生活に必要な医療処置、社会資源の活用、多職種連携・協働を理解し、地域に暮らす人々と家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を考える。</p> <p>療養生活に必要な医療機器管理、処置、観察、異常の早期発見の基本的事項について対象者及び家族とともに管理できる知識を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における時期別の看護 2. 地域で暮らす人々と家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患もつ人とその家族への看護 ・終末期にある人とその家族への看護 ・難病で療養生活を送る人とその家族への看護
<p>地域・在宅 看護論実習 I</p>	<p>地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために見込まれている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解することを目的とする。</p> <p>地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解し、地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念理解を深める。また、地域で生活する人々とその家族（介護者）の在宅看護の実際から、</p>	<p>【地域包括支援センター・障害者基幹相談支援センター】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と施設を利用する人々を理解する。 2. 地域のケアニーズを把握し、対象者に応じた支援を理解する。 <p>【入退院支援に関わる部門または病棟】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入退院支援に関わる部門の役割を理解する。 2. 保健・医療・福祉領域の関係機関・関係職種との連携機能と社会資源を理解する。 3. 対象者が安心して地域で暮らすために、

	<p>地域・在宅看護のあり方を考える。これら を目標とし、多様な場での実習を通し学 ぶ。</p>	<p>地域で生活している人々とその家族の 特性をふまえた看護実践を理解する。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として 看護師の役割を理解する。</p>
<p>地域・在宅 看護論実習Ⅱ</p>		<p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している人々と家族を生活 者として捉え、生活のなかでの支援の 実際を理解する。 2. 地域で療養している人々の生活と健康 上の問題、家族関係を理解する。 3. 関係機関・関係職種との連携・協働につ いて学び、保健・医療・福祉チームの一 員としての看護師の役割を理解する。 <p>【通所介護施設実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デイサービスセンター・デイケアセン ターを利用している人々を理解する。 2. 利用者の自立と生活習慣に応じた援助 の実際を知る。 3. 地域で暮らす人々と家族を支援する施 設の役割と看護の役割について理解す る。

成人看護学

成人看護学は、成人期にある発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。少子高齢化が進むに伴い、社会構造や医療構造が変化し、地域包括ケアシステムの構築が進められている。それに伴い、成人期の人々を取り巻く環境も目まぐるしく変化している。そのことに影響を受けると考えられる健康問題も複雑化、多様化してきている。成人期は、社会の担い手として仕事を持ち、働き、生活を営んでいる。とくに成人は、就職、結婚や出産・育児、定年など複数の転機を体験し、社会的役割や期待を担いつつ心身ともに成長していく。そのような中で看護においては、健康な人はもちろん、思いもよらない健康状態の急激な変化、病気や障害を持ちながらの生活の再構築、逃れられない死に直面した人々にどのようなケアを行うことが必要なのかを考えていくことで、成人期にある対象が、健康障害を抱えながらも住み慣れた地域でうまく付き合いながら、社会的役割を果たしながら生活していくことができるように、支えていくことを学んでいく必要がある。

目的：成人期にある対象を理解し、発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目標：

1. 地域で生活する成人期にある対象の各発達段階の特徴を知り、身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する。
2. 成人保健の動向を知り、成人期にある対象の最適な健康の重要性とその状況に応じた看護を理解する。
3. 地域で生活する成人期の対象および家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。
4. 成人期にある対象の健康上の問題を理解し、看護を実践できる知識・技術・態度を習得する。
5. 対象の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践できる。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
成人看護学概論	1単位 15時間	15時間			
成人看護学援助論Ⅰ	1単位 30時間		30時間		
成人看護学援助論Ⅱ	1単位 30時間		30時間		
成人看護学援助論Ⅲ	1単位 30時間		30時間		
成人看護学援助論Ⅳ	1単位 30時間		30時間		
成人看護学援助論Ⅴ	1単位 15時間			15時間	
成人看護学援助論Ⅵ	1単位 15時間			15時間	
成人看護学実習Ⅰ	2単位 90時間			90時間	
成人看護学実習Ⅱ	2単位 90時間			90時間	
成人看護学実習Ⅲ	2単位 90時間			90時間	

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
成人看護学概論	<p>成人の各発達段階の特徴および、成人を取り巻く環境と生活からみた健康を理解する。</p> <p>大人の学習理論に基づいた行動変容の促進を促す看護アプローチの基本を理解する。</p> <p>健康に影響を与える顕在的・潜在的要因を理解し、予防のため日常生活行動の修正を支援する看護の重要性を学ぶ。</p> <p>健康障害を持ちながら生活する対象に必要な看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の各発達段階の特徴と健康の理解 2. 成人への看護アプローチの基本 3. 成人の健康レベルや状態に応じた看護 4. 健康障害をもちながら生活する対象に必要な支援
成人看護学援助論 I（周手術期看護）	<p>周手術期の概念を理解する。</p> <p>手術を受ける対象と家族の特徴と術前・術中・術後を通じた看護について理解する。</p> <p>手術中の対象の特徴と麻酔、手術室環境及び手術中に必要な看護を理解する。</p> <p>突然の状態変化が起こった対象と家族の特徴及び救命に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての看護を理解する。</p> <p>手術侵襲による身体の変化をアセスメントする基礎的能力を身につけ、合併症の予防ならびに回復過程を促す援助について理解する。</p> <p>手術で身体の一部を喪失することにより、形態・機能的変化がありながらも生活していくことを支える援助について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期の概念 2. 手術前の看護・外来と病棟間の連携 3. 手術中の看護 4. 突然の状態変化に対する看護 5. 手術後の看護 6. 手術後の看護の実際 7. 周手術後の継続看護
成人看護学援助論 II（リハビリテーション看護）	<p>リハビリテーションとリハビリテーション看護の概念を理解する。</p> <p>リハビリテーションにおける看護の役割と援助を理解する。</p> <p>リハビリテーション看護を必要とする対象およびその家族を理解する。</p> <p>障害を持ちながらもその人らしく地域で生活していくことを支える看護を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護とは 2. リハビリテーションにおける看護の役割と援助 3. リハビリテーションを必要とする対象と家族への看護の実際 4. 生活者として対象を支えるリハビリテーション看護

成人看護学援助論 III (セルフマネジメント支援)	<p>成人期におけるセルフマネジメントの概念を理解する。</p> <p>慢性病をもちながら生活している対象とその家族について理解し、セルフマネジメントを推進する看護を理解する。</p> <p>身体機能の不可逆的な障害をもつ対象の特徴と看護について理解する。</p> <p>セルフマネジメントの推進に向けた看護について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントとは 2. セルフマネジメント支援を必要とする対象とその家族の理解と看護 3. 障害や疾患とともに生活する対象を支える看護の実際 4. セルフマネジメントの推進に向けた看護
成人看護学援助論 IV (緩和ケア)	<p>緩和ケアに関する概念を理解し、倫理的課題・死について自分の考えを述べることができる。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴を理解する。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象が最期までその人らしく生きることができるよう援助方法を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念と看護師の役割 2. 全人的ケア 3. 臨死期のケア 4. 家族のケア 5. 緩和ケアと生命倫理 6. 緩和ケアの実際 7. 緩和ケアを受けながら生活する対象の看護
成人看護学援助論 V (救急看護)	<p>救急看護の定義と救急看護の場を理解する。</p> <p>救急看護を受ける対象とその家族の理解と看護の基本を理解する。</p> <p>基本的な救命救急処置の方法を理解し、紙上事例で模擬的に実践することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護の概念 2. 救急看護を受ける対象への看護の実際 3. 傷病者のBLS
成人看護学援助論 VI (臨床判断)	<p>周手術期にある対象の看護を展開するための臨床判断能力を養う。</p> <p>演習を通して、臨床判断モデルを活用して周手術期にある対象に合併症の予防及び回復を促す看護を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例患者の術後合併症の危険性及び看護援助の方向性 2. 術後の状態に応じた援助の判断と実施 3. 術後患者の日常生活援助と診療の補助技術 4. 術後患者の臨床判断の実際
成人看護学実習 I (周手術期)	<p>急速に健康状態が変化する対象の病態や治療とその影響について理解する。</p> <p>合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援する。</p> <p>日常生活の自立に向けた回復過程を支援する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象の理解 2. 術前・術中・術後の対象のアセスメントと合併症予防、回復過程に応じた看護の実際

	<p>継続看護の必要性を学ぶ。</p>	<p>3. 急性期にある対象と家族への退院指導</p>
<p>成人看護学実習Ⅱ (セルフケアの再獲得)</p>	<p>セルフケアの再獲得が必要な成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を統合的に理解する。</p> <p>対象のその人らしい生活とその実現に向けて必要なセルフケアについて理解する。</p> <p>対象の意思を尊重し、成人期としての強みを活かしたセルフケアの再獲得を支援する。</p> <p>対象がセルフケアを再獲得できるよう多職種で支援し、看護を継続することの必要性を理解する。</p>	<p>1. セルフケアの再獲得が必要な対象の理解</p> <p>2. その人らしい生活の維持するために必要となるセルフケアの再獲得に向けた看護の実践</p>
<p>成人看護学実習Ⅲ (緩和ケア)</p>	<p>緩和ケアに関する概念を理解し、倫理的課題・死について自分の考えを述べる。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴を理解する。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象とその家族に必要な援助を理解する。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象に対する看護の実際と多職種連携を理解する</p>	<p>1. 緩和ケアを受ける対象の理解</p> <p>2. 対象の苦痛を緩和し、その人らしく豊かに生活できるよう支援する看護の実践</p>

老年看護学

老年看護学では、老年期にある対象の生き方や価値観を尊重し、その人が望む人生の統合に向けて支援するために必要な知識、技術、態度を養うことを目指す。

超高齢社会に突入している今、老年期にある対象を取り巻く社会は変化し、それに伴い施策も変化している。そのため、社会の変化をとらえ、保健・医療・福祉の連携の中での看護の役割が理解できる内容としていく。また、加齢変化は身体的生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理側面に大きな影響を及ぼし、健康上の課題も複雑で日常生活への影響も大きい。そのため、看護においては高齢者に起こりやすい身体的・心理的・社会的変化を理解し、個別の生活援助に必要な知識・技術を身につけたい。老年期にある対象の健康上の課題を理解することにより、地域社会の中で、健康に安心して暮らし続けられるよう、対象の状況に応じた QOL 向上に向けた生活支援ができるための学習を進めていく。

老年看護学実習では、対象を理解し、健康上の諸問題をもつ高齢者及びその家族に対して、健康の保持と QOL を向上させるための看護が実践できる基礎的能力を養う。入院治療を受ける高齢者、地域で暮らす高齢者に対して、対象のもてる力や潜在している力を最大限に引き出し、その人にとっての自立へ向けた援助が行えるようにしていきたい。また、高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれるように講義から学習していく。地域医療機関と連携して地域の中で安心して療養生活を送れるような支援を病院での実習、施設での実習を通して学ぶ。

目的： 老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや環境下にある高齢者に対して、その人が望む人生の統合に向けて支援するために必要な基礎的能力を養う。

目標：

1. ライフステージのなかの老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
2. 高齢者の健康課題を理解し、継続的・予防的な看護活動の必要性と看護の方法を理解できる。
3. 老年期の健康と QOL について理解を深め、高齢社会における老年看護の役割について理解できる。
4. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、その他の専門職との連携について知る。
5. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助が出来る。
6. 生活機能の障害が家族の機能にどのような影響を及ぼしているのかを理解できる。
7. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。
8. 高齢者の生活史について理解を深め、自己の高齢者観を養う。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
老年看護学概論 I	1単位（30時間）	30時間			

老年看護学概論Ⅱ	1単位（15時間）		15時間		
老年看護学援助論Ⅰ	1単位（30時間）		30時間		
老年看護学援助論Ⅱ	1単位（30時間）			30時間	
老年看護学実習Ⅰ	2単位（90時間）			90時間	
老年看護学実習Ⅱ	2単位（90時間）				90時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
老年看護学概論Ⅰ	<p>高齢者に対する関心をもち、高齢者観を養う基礎とする。</p> <p>加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解し、支援のあり方を考える。</p> <p>高齢者の看護が行われる場とその場での看護の役割を知り、老年看護のめざすものについて考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける高齢者、加齢と老化、発達課題 2. 概念の活用 3. 加齢に伴う身体的変化、心理的变化と暮らしへの影響 4. 高齢社会の現状と動向 5. 加齢に伴う社会的変化、暮らしの変化 6. 健康維持と介護予防、フレイル 7. 高齢者の権利擁護 8. 高齢者の看護が行われる場と役割 9. 高齢者におけるエンドオブライフケア
老年看護学概論Ⅱ	<p>社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療における現状を理解する。</p> <p>高齢社会での保健・医療・福祉制度の動向やその特徴、多様化する職種とその役割を理解する。</p> <p>制度に基づいた各種サービスの内容と取り組みについて理解し、その活用を考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者保健の現状・医療の動向 2. 高齢社会における保健医療福祉制度 3. 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 4. 在宅・施設サービスの構成と取り組み 5. 治療・介護を必要とする高齢者の家族への支援 6. 高齢者の人権に関する制度

<p>老年看護学援助論 I</p>	<p>生活機能の視点から、日常生活動作や転倒転落リスクについてのアセスメントと看護を理解する。</p> <p>高齢者の健康上の問題や疾病をめぐる特徴をふまえ、生活に視点をあてたアセスメントと看護について理解する。</p> <p>薬物療法・外科的治療における患者の身体的課題を心理的側面との関連を考えながら理解する。</p> <p>看護に必要なアセスメントと援助の方法を理解する。</p> <p>高齢者の疾患の現れ方と特徴、徴候のアセスメントについて学ぶ。また主要症状や経過に応じた看護の方法について理解する。</p> <p>老年期の主な疾患とその治療に伴う看護の方法を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活動作能力のアセスメントと援助の方法 2. 生活機能維持のための転倒・骨折予防 3. 高齢者の日常生活のアセスメントと看護 4. 薬物療法を受ける高齢者の看護 5. 外科的治療を受ける高齢者の看護 6. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助 7. 主な疾患の看護（白内障、前立腺肥大症、骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折）
<p>老年看護学援助論 II</p>	<p>日常生活に介護の必要な認知症高齢者への援助の視点と方法を理解し、長年生きてきた生活過程を尊重した関わりを考えることができる。</p> <p>生活の不活発がみられる高齢者への援助の視点と方法を理解し、要介護状態の重度化を予防する看護について考えることができる。</p> <p>高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメントの視点や健康レベルに応じた援助の方法を理解する。</p> <p>高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、その人の QOL を高める援助を考え、残存機能を生かし、出来るだけ自立した日常生活を送れるように考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知機能障害のある高齢者（認知症、うつ、せん妄）の看護 2. 生活の不活発と廃用症候群、介護が必要な高齢者の看護の実際 3. 老年看護の展開（地域で暮らす高齢者が入院治療後、地域（介護老人保健施設）へ

<p>老年看護学実習 I</p>	<p>高齢者の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象を総合的に理解する。</p> <p>高齢者の日常生活が入院治療によって、どのような影響を受けているかがわかる。</p> <p>健康や生活の支えとなっているもてる力や潜在している力を最大限に引き出し、その人にとっての自立へ向けた援助ができる。</p> <p>高齢者及び家族を支える医療、多職種連携、継続看護の実際を知る。</p> <p>高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</p>	<p>【病棟】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解 2. 対象者のアセスメントと看護の方向性 3. もてる力や潜在している力を活かした援助の実施 4. 対象者の退院後の生活を見据えた援助の実施 5. 対象者に応じた社会資源の活用や多職種連携の必要性と継続看護 <p>【オリエンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者総合支援センターの概要と主な業務
<p>老年看護学実習 II</p>	<p>高齢者への関心を持ち、その人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</p> <p>対象一人ひとりに応じた日常生活への援助ができる。</p> <p>施設で生活する高齢者を理解し、看護の役割を考えることができる。</p> <p>施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び多職種連携の実際を知る。</p> <p>地域における介護老人福祉施設、介護老人保健施設の役割と事業について知る。</p>	<p>【介護老人福祉施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設に入所中の高齢者の理解（複数の入所者と関わる） 2. 高齢者とのコミュニケーション 3. 対象者の自立の程度や状態に応じた日常生活の援助 4. 介護老人福祉施設の役割、機能 5. 施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び連携の実際と看護の役割 <p>【介護老人保健施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設に入所中の高齢者の理解（一人を受け持つ） 2. 高齢者とのコミュニケーション 3. 対象者の生活の状況のアセスメント 4. 対象者の自立の程度や状態に応じた日常生活の援助 5. 介護老人保健施設の役割、機能 6. 施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び連携の実際と看護の役割

小児看護学

子どもとその家族を取り巻く環境は急激に変化している。少子高齢化・核家族化など現代の家族や社会の状況を知り、子育てで不安やいじめ・自殺、生活習慣病など子どもを取り巻く問題を理解する必要がある。子どもの権利と健康を守り、健やかな成長・発達を支援するために小児看護を学ぶ。

子どもは家族に守られ、家族との相互作用のなかで、最初の人間関係を築き、生活習慣を確立し少しずつ社会性を身につけ、常に成長・発達する存在である。小児看護の対象である子どもが、権利を有する一人の人として尊重され、子どもにとっての最善の利益を考えた看護を目指す。あらゆる発達段階・健康状態・療養の場における子どもが、社会の中で健やかに発達し生きていくことができるよう子どもが本来持つ力を引き出す看護のあり方を考える。家族は子どもと一緒に支える存在であるとともに看護ケアの対象である。家族を子どもの重要な存在と位置づけ、子どもと家族が主体となるケアを学ぶ。

子どもの健康状態や看護の必要性を判断するために、アセスメントに必要な知識と技術を理解する。小児事例の発達段階・健康状態に応じた看護を展開することで、看護の対象がもつ問題を解決するためのプロセスを学ぶ。演習を通して、健康障害を持つ子どもが、安全な療養生活が送れ、親子の療養行動を促進する援助、成長・発達を支援しながら、子どもが本来持つ力を引き出し発揮できるような援助を考える。

小児看護学実習では、子どもと接する経験を通して子どもの理解を深め、発達段階に応じた働きかけを学ぶために、保育園実習・病棟実習を設ける。また病棟実習では、健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、検査や処置を受ける子どもの安全と苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関りを考える機会とする。また、多職種との連携や継続看護、退院後の生活支援の実践を学ぶ。

目的：あらゆる健康レベルにある子どもとその家族を対象にし、子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支え、地域でその子らしく生活できるように支援する看護の基礎的能力を養う。

目標：

1. 小児各期の成長・発達を理解し、小児看護の対象である地域で生活する子どもとその家族を理解する。
2. 子どもの権利を尊重し、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。
3. 地域で暮らす子どもの日常生活を知り、健やかな成長・発達を支援するための看護を理解する。
4. 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護を理解する。
5. 子どものアセスメントに必要な看護技術を理解する。
6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
小児看護学概論	1単位 (30時間)		30時間		
小児看護学援助論 I	1単位 (15時間)		15時間		
小児看護学援助論 II	1単位 (30時間)		30時間		
小児看護学援助論 III	1単位 (15時間)		15時間		
小児看護学実習	2単位 (90時間)			90時間	

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
小児看護学概論	<p>小児看護学の対象となる子どもとその家族の理解を深める。</p> <p>子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支援するために成長・発達の特徴、家族の特徴、地域で暮らす子どもの日常生活について理解する。また、子どもの倫理と権利について考え、子どもにとっての最善の利益を目指す看護を理解する。</p> <p>法律や統計を通して、子どもを取り巻く社会環境の変化と課題を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護とは 2. 小児看護における権利・倫理 3. 子どもの成長・発達の原則とアセスメント 4. 小児各期の成長・発達に応じた生活への支援 5. 子どもにとっての家族 6. 子どもと家族を取り巻く社会環境の変化と課題
小児看護学援助論 I	<p>あらゆる発達段階・健康状態・療養の場における子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、子どもが本来持つ力を引き出す看護のあり方を学ぶ。</p> <p>また、子どもの健康状態や看護の必要性を判断するために、アセスメントに必要な知識と技術を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題をもつ子どもとその家族におよぼす影響 2. 病気に伴う子どものストレスと対処 3. 子どもにとっての最善の利益を目指した看護 4. 小児の療養の場と安全・安楽な療養環境の調整 5. 健康問題や障がいをもつ子どもと発達段階に応じた看護 6. 小児のアセスメント 7. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 8. 小児の看護技術

小児看護学援助 論Ⅱ	健康問題や障害をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの成長・発達段階や病気、症状、経過・状況に応じた看護の特徴を学ぶ。	1. 健康段階に応じた子どもと家族への看護 (発達問題・虐待・症状別看護・病期別看護・外来)
小児看護学援助 論Ⅲ	<p>事例を通して、対象理解や看護の方向性を考えるための情報整理、全体像・関連図の記載、分析を行い、発達段階・健康状態に応じた看護を考える。</p> <p>検査や処置を受ける子どもの安全とその苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関わりを考える。また、多職種連携や継続看護について考える。</p> <p>また、子どもとその家族が安心して地域で暮らし続けられるように、継続看護の必要性を理解し、社会資源の活用を考える。</p>	1. 事例を通しての看護の展開 2. 事例の状態に適した看護 3. 退院後の子どもの暮らしを支える看護
小児看護学実習	<p>実習では、子どもとの関わりを通して子どもの成長・発達の特徴を理解し、発達段階に応じた働きかけを学ぶ。</p> <p>保育所実習では、健康な乳幼児の理解を深め、子どもに親しみを持って関わる方法を学ぶ。また病棟実習では、健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、検査や処置を受ける子どもの安全とその苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関わりを考える機会とする。また、多職種との連携や継続看護、退院後の生活支援の実際を学ぶ。</p>	1. 子どもの成長・発達、基本的生活習慣の理解 2. 子どもとのコミュニケーション 3. 健全な成長発達を促進するための養育のあり方 4. 健康問題を持つ子どもとその家族への成長発達段階、健康問題に応じたアセスメントと看護の実践 5. 健康問題をもつ子どもの継続看護と退院後の生活支援

母性看護学

女性の生涯や役割の多様化、医学の進歩・発展、晩産化と少子高齢化、母子をめぐる生活環境の変化など母性看護の役割は拡大している。生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から母性看護の対象や、次世代が健康に生まれ育つことができるよう変化していく母性への支援を理解する。現代の女性を取り巻く環境の変化と、女性のライフステージ各期におけるその時期の女性の特徴や健康問題について、リプロダクティブヘルスケアとの関係から理解する。

妊娠、分娩、産褥、新生児の経過とその看護を学び、周産期にある対象とその家族への看護について理解する。対象と家族、その家族が生活する地域社会をも含めた看護を理解する。また、異常な妊娠、分娩、産褥、新生児の経過とその看護を学ぶ。

周産期にある対象とその家族に対するアセスメントと必要な看護を看護実践の演習を取り入れて理解する。正常な経過の基礎知識と看護を確認しながら学習をすすめ、一連の看護展開を、学内演習を通して学ぶ。

母性看護学実習では、周産期における対象とその家族を理解し、次世代の健全な育成にむけてのセルフケアを高める援助を理解する。また、周産期における親子関係と継続看護の必要性を理解する。

目的：女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成を目指し、産み育てるための母性への支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

- 目標：1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念を理解する。
 2. 親になることの意味を考え、母性のとらえかたについて理解する。
 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。
 4. リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解する。
 5. 女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。
 6. 性と生殖に関する倫理観を養う。
 7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象とその家族を理解する。
 8. 周産期にある対象に次世代の健全な育成にむけてのセルフケアを高める援助を理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
母性看護学概論Ⅰ	1単位（30時間）		30時間		
母性看護学概論Ⅱ	1単位（15時間）			15時間	
母性看護学援助論Ⅰ	1単位（30時間）			30時間	
母性看護学援助論Ⅱ	1単位（30時間）			30時間	
母性看護学実習	2単位（64時間）				64時間

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
母性看護学概論Ⅰ	<p>母性看護の基盤となる概念について考え、母性看護の対象とそのあり方及び対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。</p> <p>リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解すると共に性と生殖に関する倫理観を養う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念 2. 母性とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 親になることと母性 2) 母性の発達・成熟・継承 3) 母子関係と家族発達 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 4. リプロダクティブヘルスケア 5. 母性看護と倫理
母性看護学概論Ⅱ	<p>女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2. 女性のライフサイクル各期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期女性の健康問題と看護 2) 成熟期女性の健康問題と看護 3) 更年期・老年期女性の健康問題と看護
母性看護学援助論Ⅰ	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象とその家族の看護を理解する。周産期にある対象に次世代の健全な育成に向けてセルフケアを高める援助を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の経過と看護 2. 分娩の経過と看護 3. 新生児の経過と看護 4. 産褥の経過と看護
母性看護学援助論Ⅱ	<p>周産期特有の疾患の病態、症状、診断、治療、および異常時の妊産褥婦・新生児とその看護を理解する。</p> <p>母性看護における看護過程を展開する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥の異常 2. 異常妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 3. 母性看護における看護過程の特殊性 4. 母性看護技術
母性看護学実習	<p>妊婦・産婦・および新生児とその家族を理解し、女性のライフサイクルに応じた看護を学ぶ。</p> <p>妊娠・分娩・産褥期における親子関係について理解し、母性看護における継続看護の必要性を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的経過の理解 2. 妊婦・産婦・褥婦とその家族に対する保健指導 3. 妊婦・産婦・褥婦とその家族のアセスメントと必要な看護の実践 4. 親子関係の理解

精神看護学

現代社会は目覚ましい科学技術の発展を遂げ、同時に複雑化している。その中で人々はストレスにさらされ、心のバランスを崩しやすくなり、こころを病むことはあらゆる人々に起こりうる。その中で、人間は様々な悩みや問題と向き合うことでより成熟していく。そこで、精神看護学では、あらゆるライフサイクルにある人々を対象に、こころの健康を維持するための精神看護の目的や役割について理解を深める。そして、精神機能を障害することによる生活への影響を理解し、対象を生活者としてとらえ、経過に応じた看護が提供できることを目指す。さらに、精神障がいのある対象がその人らしく生きるために、地域における対象の暮らしを考える。また、精神看護は自己を道具とし、対象との相互作用を行うことにより、看護を発展させていく。そのため、基礎看護学で学んだ人間関係技術を発展させ、治療的人間関係について学ぶ。

精神看護学実習では、精神に障害のある対象を、生活者としてとらえ、共に過ごす時間と場を大切にしたい実習とする。そして、関係障害のある対象との出会いから、治療的な人間関係への発展に至る過程を学んでいくことで、対象が表現している、あるいはひそめているニーズを看護によって満たすことの重要性を体験していく。また、この体験の中から自己・他者理解が深まり、精神看護の役割について理解する。

目 的： 精神の健康を保持増進するための支援や、精神に何らかの健康問題を抱えている人々がその人らしく生きるための支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

目 標：

1. 発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康から不健康を多角的に理解する。
2. 精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。
3. 精神に何らかの健康問題を抱えている人々とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。
4. 地域精神保健活動のシステムと活動の実際を理解する。
5. 精神保健福祉活動における看護の責任と役割を理解する。
6. 災害における精神保健福祉活動を理解する。
7. 精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。
8. 精神障がいのある対象者に応じた看護を理解する。
9. 精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察をおこない、対象との関係性の構築を考えることができる。
10. 精神障がいのある対象者の地域生活への支援を理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
精神看護学概論Ⅰ	1単位(15時間)		15時間		
精神看護学概論Ⅱ	1単位(15時間)			15時間	
精神看護学援助論Ⅰ	1単位(30時間)			30時間	
精神看護学援助論Ⅱ	1単位(30時間)			30時間	
精神看護学実習	2単位(90時間)				90時間

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
精神看護学概論Ⅰ	全てのライフサイクルを対象としたメンタルヘルスの視点から、心の発達過程を理解し、こころの健康と障害のある対象を多角的に理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナリティの成長発達 2. ストレスと対処行動 3. 適応と心身の健康 4. ライフステージにおける発達課題 5. 生活の場と精神健康問題
精神看護学概論Ⅱ	精神科領域が入院医療中心から地域生活中心へとかわっていった歴史的変遷と、それに伴って変化した法制度、精神保健福祉活動の実際について理解する。 被災した人々に生じる心の変化やケアについて理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉の歴史 2. 精神保健福祉法の現状 3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度 4. 地域精神保健活動の実際 5. 災害における精神保健福祉援助
精神看護学援助論Ⅰ	精神看護に必要な基本的看護技術や精神医療について学び、精神障がいのある対象の強みに着眼し、その人らしく生きることに対しての看護を考えられる基礎的能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の目的・役割と歴史的変遷 2. 不安の援助と防衛機制 3. リエゾン精神看護 4. 精神看護に必要な基本的看護技術 5. 主な精神疾患の症状別看護 6. 精神科治療と看護 7. 精神科入院と看護 8. 行動制限とリスクマネジメント 9. 回復過程を支える看護

<p>精神看護学援助論Ⅱ</p>	<p>精神障がいのある対象との関係性から、自己洞察を深め、対象理解をすることで精神障がいのある対象の個別性に応じた看護、自己の人間関係の特徴を見出し、看護師としての成長につなげる。</p> <p>精神看護における看護過程を展開する。</p> <p>精神障がいがありながら生活する対象に対する支援を考え、その中で多職種連携を意識して看護の役割機能を考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいのある対象の疾患別看護 2. 統合失調症患者の看護（事例展開） 3. 精神看護における看護場面の再構成 4. 地域に住む精神障がいのある対象者への支援
<p>精神看護学実習</p>	<p>自分の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察をする。</p> <p>精神の障がいがある人及びその家族の理解を深め、精神の健康回復への看護を学ぶ。</p> <p>精神の障がいがある人の地域生活への支援を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己洞察と対人関係における自己の課題の理解と取り組み 2. 精神科病棟に入院している患者とその家族のアセスメントと必要な看護の実践 3. 精神の障がいがある人の継続医療の必要性と看護の役割の理解 4. 地域で生活している精神障がいがある人への支援の理解

看護の統合と実践

看護を取り巻く環境は時代とともに変化しており、国民の意識も安全・安心の重視とともに、医療の質を重視する方向に転換してきている。また、医療から地域へと対象の捉え方がシフトしている社会のニーズに対応し、看護においても活躍の場を広げ、質の高い看護の提供が求められている。その中で対象の生活の質を向上させるためには、保健・福祉・医療チームと協働することは欠かせない。このような環境の変化に対応し、看護実践能力の育成を目指し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用できるように、より臨床に近い疑似環境で学習を進め、チームの中での役割を考え、周囲との関係調整を図るための基礎的能力が身につくことをめざす。災害看護・国際看護では災害時における看護の役割・機能が理解できる能力を養うとともに、看護の国際協力の在り方や、看護の動向を理解する。看護マネジメントでは、看護を取り巻く諸制度や看護管理について理解する。また、医療事故の問題について学び、リスクマネジメントの基礎を理解するとともに、医療事故の予防の方法を理解し、リスクマネジメントのプロセスと実践の実際を、危険予知訓練を通して学ぶ。看護観では、自己の経験を振り返り、対象の理解や看護の意味を考える。そして、他者の看護観を通して自己の看護観を深め、看護専門職としての目標を明確にすることをめざす。そして、統合実習では、各分野の知識・技術・態度を統合させ包括的視点で看護実践するための基礎的能力を養う。

目的：看護の知識・技術を統合し、臨床に適応する基礎的能力を養う。

目標：

1. 保健・医療・福祉チームの一員として協働するために、看護職としての役割とマネジメント能力の必要性を理解する。
2. 医療安全の基礎的知識を学び、看護・医療事故やその影響を最小限にすることのできる知識と技術を習得し、看護・医療安全を遵守する意志を高める。
3. 災害看護の役割・災害直後から支援できる基礎的知識について理解する。
4. 世界の健康問題と看護の現状と課題をふまえ、看護の国際協力の活動内容の実際を知り、諸外国で展開される、看護実践や国際的な支援活動について学び、国際的視野を広げる。
5. 既習の知識・技術・態度を統合し、様々な場面において、その技術を活用できる能力を養う。
6. 自己の看護の修得状況を認識し、熟練・向上するために継続的に学習する能力を養う。
7. 看護職以外の専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と多職種との協働・連携について考える。
8. 自己の看護観をまとめ、看護専門職としての目標を明確にできる。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第二看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次
看護の統合と実践Ⅰ	1単位（15時間）			15時間	
看護の統合と実践Ⅱ	1単位（15時間）				15時間
看護の統合と実践Ⅲ	1単位（15時間）				15時間
看護の統合と実践Ⅳ	1単位（30時間）				30時間
看護の統合と実践Ⅴ	1単位（15時間）				15時間
統合実習	2単位（90時間）				90時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
看護の統合と実践Ⅰ	医療事故を学ぶことの意義や医療事故に関する基礎的知識を理解することを目的とし、事例を通して看護業務を行う上での種々の危険因子を理解する。また、事故防止のための具体的な行動について理解し、判断力を高める。安全管理に取り組む組織の一員として自覚を高める。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方を学ぶ 3. 看護・医療事故予防の実践 4. 医療安全管理
看護の統合と実践Ⅱ	病院において医療全体が効果的、経済的に機能するための管理方法の基本を学び、看護組織における看護サービスの管理方法を理解する。 また、多職種の役割と責務について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメント 2. 組織の中の役割 3. マネジメントに必要な知識と技術 4. チーム医療とは 5. チーム医療を発揮するために看護職と多職種との協働・連携
看護の統合と実践Ⅲ	災害の定義や災害発生時の社会の適応や仕組み・個人の備えについて学び、災害が被災者の生活や健康に及ぼす影響を理解する。 災害直後から復興に向けての看護ケアの基本を理解し、その対象への看護ケアの提供方法が理解できる。 保健医療分野における国際協力の必要性を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療の基礎知識 2. 災害看護の基礎知識 3. 災害サイクルに応じた看護 4. 災害とこころのケア 5. 保健医療分野における国際協力

<p>看護の統合と 実践Ⅳ</p>	<p>複数の課題に対して起こり得ることを予測した援助方法を判断する。また、対象に必要な援助の優先順位を状況に応じて決定および修正ができ、行動計画を立案することを学ぶ。</p> <p>複数の対象の状況理解や複数の対象に応じた援助が実践でき、統合的に知識と技術を活用し、対象の状況に応じた対応を考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の対象者の状況・状態に応じた援助方法 2. 複数の対象者の状況・状態に応じた援助の実際 3. 統合実習のふり返り
<p>看護の統合と 実践Ⅴ</p>	<p>自己の経験を振り返り、対象の理解や看護の意味を考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の考える看護 2. 自己の大切にしたい看護の意味 3. 看護観を他者に伝えての自己の看護の振り返り 4. 看護専門職としての目標
<p>統合実習</p>	<p>チーム医療及び他職種との共同の中で看護師としての役割を理解し、安全な医療や看護が実践できる能力を養う。複数の患者を受け持ち、多重課題の中で看護を実践する方法を理解し、よりよい看護を提供するための看護管理について理解する。</p> <p>看護活動が円滑に行われるためのチームリーダー・チームメンバーの役割を理解し、組織としての医療安全の取り組みを理解する。また、多様な専門職との連携の実際を知り、その中での看護の役割を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における看護管理 2. 病棟管理の実際 3. チームリーダー業務 4. メンバー業務 5. 看護チームの一員としての看護ケアの実施 6. 複数患者を受け持ち、時間管理や優先順位を考えた看護

基礎看護学

目的：看護に必要な基礎的知識、技術および態度を学ぶことで看護を実践できるための基礎的能力を養う。

- 目標：1. 看護の対象である人間について理解し、看護とは何かを考え看護の本質を理解する。また、専門職としての倫理及び看護の役割を理解する。
2. 対象の理解と看護実践の基礎となる技術と態度を習得する。
3. 看護における研究の意義と方法を理解し、研究的態度を養う。

構成

基礎看護学

14 単位 (360 時間)

看護学概論		
看護学概論 I	1 単位 30 時間	
看護学概論 II	1 単位 15 時間	
共通基本技術		
共通基本技術 I	1 単位 30 時間	(環境・安全)
共通基本技術 II	1 単位 30 時間	(人間関係・学習支援)
フィジカルアセスメント	1 単位 30 時間	
看護過程	1 単位 30 時間	
臨床判断	1 単位 15 時間	
日常生活援助技術		
日常生活援助技術 I	1 単位 15 時間	(活動・休息)
日常生活援助技術 II	1 単位 30 時間	(食事・排泄)
日常生活援助技術 III	1 単位 30 時間	(清潔・衣生活)
診療の補助技術		
診療の補助技術 I	1 単位 30 時間	(与薬・輸血)
診療の補助技術 II	1 単位 15 時間	(診察と検査に伴う技術・創傷処置)
臨床看護総論	1 単位 30 時間	
看護研究	1 単位 30 時間	

基礎看護学実習 I

1 単位 (45 時間)

基礎看護学実習 II

2 単位 (90 時間)

科目名 看護学概論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 健康の意義および看護の本質を理解し、看護とは何かを考え、対象である人間について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1-3. 看護とは 看護の定義 看護理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム ロイ、ペプロウ、トラベルビー 看護ケアについて 4-5. 看護の対象の理解 「こころ」と「からだ」を理解することの意味 生涯発達し続ける存在、人間の「暮らし」 6. 看護と健康 国民の健康状態と生活 7-8. 看護の提供者 職業としての看護、看護職の資格・養成制度 継続教育とキャリア開発 9-10. 看護における倫理 11-12. 看護の提供のしくみ 看護サービスの提供の場、継続看護、看護をめぐる制度と政策 看護サービスの管理 13. 医療安全と医療の質保証 14. 広がる看護の活動領域 国際化と看護、災害時における看護	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		評価方法 筆記試験 80% 課題 20%
参考図書		
受講上の注意		

科目名 看護学概論Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 看護活動の実際から看護の役割と機能を知る。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 1) 看護の役割と機能 看護実践とその質保証に必要な要件 看護の継続性と連携	講義	* 1 人の看護師について見学する
2. 看護活動の実際		
3-4. 病院における看護	病院見学	
5-6. 看護活動の実際の見学	病棟見学	
7-8. 学びの共有	グループワーク 発表会	
使用する図書 系統看護学講座 看護学概論 医学書院		評価方法 課題 100%
参考図書		
受講上の注意		

科目名 共通基本技術 I (環境・安全)	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 看護技術の特徴と範囲を理解し、看護技術の基本を習得する重要性を理解する。 2. 療養生活の環境を調整する重要性と快適な環境調整のための基礎的知識を理解し、療養生活環境を整える技術を習得する。 3. 看護実践における感染防止の基礎的知識・方法を理解し、必要な技術を習得する。 4. 療養生活の安全確保や医療安全の基礎的知識を理解し、必要な技術を習得する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる		
授業内容	方法	備考
1. 看護技術とは 1) 技術とは何か 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素	講義	<学内演習> (環境) ・快適な療養環境の整備 ・安全な療養環境の整備 (転倒転落・外傷予防)
2. 環境の基礎知識 1) 療養生活の環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整		
3-7. 援助の実際 1) 快適な療養環境の整備・安全な療養環境の整備 2) 病床を整える (ベッドメイキング) 3) 臥床患者のリネン交換	講義 学内演習	・ベッドメイキング ・臥床患者のリネン交換
8-9. 感染とその予防の基礎知識 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件 3) 院内感染の防止 4) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) の基礎知識、	講義 学内演習	(安全)
10. 感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌、使用した器具の感染防止の取り扱い	講義	・標準予防策に基づく手洗い ・必要な防護用具の選択・着
11-12. 無菌操作の基礎知識、対策の実際	講義 学内演習	脱 ・無菌操作
13. 感染性廃棄物の取り扱い、針刺し防止策・針刺し事故の防止・事故後の対応、医療施設における感染管理	講義	
14. 安全確保の基礎知識、インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告、誤薬防止、チューブ類の事故防止、患者誤認防止、転倒転落防止、薬剤・放射線暴露防止	講義	
15. 試験	筆記試験	

<p>使用する図書</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 I・II 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院</p>	<p>評価方法</p> <p>(環境)</p> <p>筆記試験・課題 60%</p> <p>技術試験 40%</p>
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 微生物学 医学書院</p>	<p>・リネン交換</p> <p>(安全)</p>
<p>受講上の注意</p> <p>看護技術は事前練習をして臨むこと</p>	<p>筆記試験・課題 60%</p> <p>技術試験 40%</p> <p>・無菌操作</p>

科目名 共通基本技術Ⅱ（人間関係・学習支援）	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員＊
科目のねらい・授業目標 1. 看護実践における対象との相互関係の成立、発展させるための理論と技術を理解する。 2. 看護における学習支援の目的と意義を理解し、健康を支える学習支援のあり方を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し。看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護および他職種の役割や他職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションの基本的知識 「話す・聞く」 2) コミュニケーションとは 3) 看護・医療におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的行動と非接近的行動	講義	
3-4. 効果的なコミュニケーションの実践 1) 患者を理解するための基本的コミュニケーション 傾聴、情報収集の技術、アサーティブネス 2) コミュニケーション技術の訓練と記録（プロセズレコード）	講義 ロールプレイ	
5-6. 医療チームにおける専門家としてのコミュニケーション技術 1) カンファレンス	講義・演習	
7. コミュニケーション障害への対応	講義	
8. 看護における学習支援 1) 学習支援の背景 2) 看護師の役割としての学習支援	講義	
9. 健康に生きることを支える学習支援 1) 学習支援の基本となる考え方 2) さまざまな場で行われる学習支援		
10. 健康状態の変化に伴う学習支援 1) 外来における学習支援 2) 入院時の学習支援 3) 退院時の学習支援		
11. 学習支援の実践 1) 個人を対象とした学習支援 2) 集団を対象とした学習支援	講義	
12. ～14. 対象に応じた学習支援 計画立案・パンフレット作成・実施・評価	演習・学内演習	<学内演習> 食事指導
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 形態機能学 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ	メヂカルフレンド社 医学書院	評価方法 筆記試験 60% 課題 40%
参考図書 看護にいかず交流分析 医学書院 看護場面の再構成 日本看護協会出版会		
受講上の注意		

科目名 フィジカルアセスメント	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する。 2. バイタルサインの測定の観察方法を習得する。 3. 系統別フィジカルアセスメントの実際を理解し、必要な技術を理解する。 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を実際のケアに結びつけていく思考を養う。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは 2) 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3) 心理・社会状態のアセスメント	講義	<学内演習> ・身体計測 ・バイタルサインの測定 ・経皮的動脈血酸素飽和度 ・呼吸音の聴診
2-3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全身印象の把握 3) 計測		
4. 身体計測	学内演習	・心音の聴診
5-6. バイタルサインの観察とアセスメント 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識	講義	・腹部の聴診 ・瞳孔観察
7. 系統別フィジカルアセスメント 呼吸系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
8-9. バイタルサインの測定（体温・脈拍・呼吸・血圧）の実際	学内演習	
10. 循環器系、腹部のフィジカルアセスメント	講義・演習	
11. 筋・骨格系、神経系、意識状態のフィジカルアセスメント	講義・演習	
12. 頭頸部と感覚器のアセスメント	講義・演習	
13. 呼吸器系・循環器系・腹部・意識状態の フィジカルアセスメントの実際	学内演習	
14. 系統的アセスメント 事例を用いた総合演習	学内演習	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院	評価方法 筆記試験 60% 技術試験 40% ・血圧測定	
参考図書 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 形態機能学 メヂカルフレンド社		
受講上の注意 看護技術は事前練習をして臨むこと		

科目名 看護過程	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 適切な看護を実践するために必要な看護過程のプロセスを理解し、看護過程の基本的な展開技術を養う。 2. 看護記録の意義や種類、看護記録の取り扱いについて理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に応じた看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方 2-4. 看護過程の5つの構成要素	講義	
5-12. 看護過程の展開 アセスメント（情報の分類・整理、全体像、分析・解釈） 看護診断（看護問題の明確化） 看護計画の立案 実施 評価	演習	
13-14. 看護記録の意義と目的、構成 看護記録の記載・管理に関する留意点	講義	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 基礎看護技術 I 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図	医学書院 ヌーベルヒカリ ヌーベルヒカリ 医学書院 医学書院	
参考図書 看護の基本となるもの 看護がみえる vol.4 看護過程の展開	日本看護協会出版会 MEDIC MEDIA	評価方法 筆記試験 50% 課題 50%
受講上の注意		

科目名 臨床判断	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 臨床判断の考え方を理解する。 2. 適切な看護を実践するために必要な臨床判断モデルを理解する。 3. 「気づく」力を育むことができる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 臨床推論・臨床判断の考え方	講義	
2－3. 「気づき」トレーニング 看護師が「気づくこと」 ・ 間近にある状況を知覚的に把握する ・ 状況から今後を予測し、臨床像を全体的に把握する	講義・演習	
4－8. 「気づく」力を育む看護実践 1) 「気づく」 2) 「解釈する」 ・ 患者データの意味づけと行為の方向性を決定する 3) 「反応する」 ・ 状況に対して適切と考えられる看護介入（行為）を決定し実際に看護を行う ・ 介入後の患者の反応を介入（行為）のアウトカムとして認識する 4) 「省察する」 ・ 看護活動への患者の反応に関心に向ける ・ 看護行為とアウトカムの関連づけを行う 5) ディスカッション ・ プレブリーフィング ・ ディブリーフィング	演習	
使用する図書 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院		評価方法 演習内容・課題 100%
参考図書 看護がみえる VOL.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA 臨床判断ティーチングメソッド 医学書院		
受講上の注意		

科目名 日常生活援助技術Ⅱ（食事・排泄）	時間数 1単位 30時間 時期 1年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 食事の意義や対象が健康な生活を送るために必要な援助技術を習得する。 2. 排泄の意義や対象が必要な援助技術を習得する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる		
授業内容	方法	備考
1. 食事の援助の基礎知識 1) 生活行動からみた食ること 2) 食事の意義 3) 栄養・食行動のアセスメント 4) 食事の種類	講義	<学内演習> (食事) ・食事介助
2-3. 食事介助の実際	講義・学内演習	・経管栄養法による流動食の注入 ・経鼻胃チューブの挿入
4-5. 非経口的栄養摂取の援助の実際 1) 経管栄養 2) 中心静脈栄養		
6. 自然排尿および自然排便に関する基礎知識 1) 生活行動からみたトイレに行くこと 2) 排泄の意義 3) 排泄のメカニズム 4) 排泄機能・排泄行動のアセスメント 5) 排泄援助の基本姿勢 6) 排泄物の取り扱い	講義	(排泄) ・排泄援助(床上・ポータブルトイレ・オムツ)
7-10. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1) 床上排泄 2) ポータブルトイレ 3) オムツ交換	講義・学内演習	・膀胱留置カテーテルの管理
11-12. 自然排尿ができない場合の医療上の処置 1) 導尿 2) 膀胱留置カテーテルの挿入と管理		・導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入
13-14. 排便を促す援助の実際 1) 便秘改善のための看護ケア 2) 浣腸 3) 摘便		・浣腸 ・摘便
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 形態機能学 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版	メヂカルフレンド社 医学書院 医学書院	評価方法 筆記試験 80% 課題 20%
参考図書		
受講上の注意 看護技術は事前練習をして臨むこと		

科目名 日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 衣服を用いることの意義を理解し、衣生活の援助技術を習得する。 2. 清潔の意義を理解し、清潔保持に関する援助技術を習得する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる		
授業内容	方法	備考
1. 衣生活援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 熱産生と熱放散 2) 被服気候 4) 衣生活に関するニーズのアセスメント 5) 病衣の選び方	講義	< 学内演習 > ・点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換
2-3. 寝衣交換の実際 1) 病衣・寝衣の交換 2) 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	講義・学内演習	・点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換
4. 清潔援助の基礎知識 1) 生活行動からみたお風呂に入ること 2) 皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能 3) 清潔援助の効果 4) 清潔援助が必要な対象	講義	・入浴、シャワー浴の介助 ・清拭 ・陰部の保清 ・洗髪
5. 清潔援助のアセスメント 1) 患者の訴え 2) 患者観察①身体の清潔状態②清潔行動 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点		・足浴・手浴 ・口腔ケア
6-14. 清潔援助の実際 1) 入浴・シャワー浴の介助 2) 部分浴(手、足) 3) 陰部の保清 4) 全身清拭 5) 洗髪 6) 洗面・整容 7) 口腔ケア	講義・学内演習	・整容(爪切り含む)
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 形態機能学 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版	メヂカルフレンド社 医学書院 医学書院	評価方法 筆記試験・課題 60% 技術試験 40%
参考図書		・臥床患者の洗髪等
受講上の注意 看護技術は事前練習をして臨むこと		

科目名 診療の補助技術 I (与薬・輸血)	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 与薬に伴う援助の意義を理解し、必要な基本的知識を理解すると共に、技術を習得する。 2. 輸血に伴う援助技術について理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 与薬の基礎知識 1) 薬物療法の意義 2) 実施の過程、機序 3) 薬物療法における看護師の役割	講義・演習	< 学内演習 > ・経口薬 (バツカル錠、内服薬、舌下錠) の投与 ・経皮・外用薬の投与 ・坐薬の投与 ・皮下注射 ・筋肉内注射
2. 薬物の基礎知識 1) 薬物の体内動態 2) 薬物の作用 3) 薬物管理		
3. 与薬時の援助と方法 1) 経口的与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 直腸内与薬法 4) 点眼法 5) 点鼻法 6) 経皮的外用薬 7) 吸入薬		
4. 与薬時の援助 (経口的与薬、経皮的外用薬、直腸内与薬)	学内演習	・静脈路確保、点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理 ・薬剤等の管理 ・輸血の管理 ・医療機器 (輸液ポンプ) の操作・管理 ・患者の誤認防止策の実施
5-6. 注射の基礎知識 1) 技術の概要 2) 注射の方法の種類 3) 注射筒と注射針 4) 実施上の責任 5) 注射の準備	講義 学内演習	
7-10. 注射の援助と方法 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射 4) 静脈内注射		
11-12. 点滴静脈内注射 1) 静脈路確保 2) 点滴静脈内注射の管理 3) 中心静脈カテーテル留置の管理 4) 輸液ポンプの操作・管理		
13-14. 輸血管理 1) 輸血に伴う援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 学内演習	
15. 試験	筆記試験	評価方法 筆記試験・課題 60% 技術試験 40% ・皮下注射
使用する図書 系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術 II 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院		
参考図書		
受講上の注意	・針刺し事故の防止、事故後の対応について復習しておくこと ・看護技術は事前練習をして臨むこと	

科目名 診療の補助技術Ⅱ（診察・検査・処置）	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 診察・検査における看護の役割と、対象にとって診察・検査が安全・安楽に行われるための技術を理解する。 2. 創傷管理に伴う技術を理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1－2. 診察・検査・処置の介助 1) 診察の介助 2) 検査・処置の介助 (1) X線検査 (2) コンピュータ断層撮影 (CT) (3) 磁気共鳴画像 (MRI) (4) 内視鏡検査 (5) 超音波検査 (エコー検査) (6) 心電図検査 (7) 肺機能検査 (8) 核医学検査 (9) 穿刺	講義・学内演習	<学内演習> ・検査の介助 ・静脈血採血 ・検体 (尿・血液等) の取り扱い ・血糖測定 ・創傷処置 (包帯法、創洗浄、創保護)
3－5. 検体検査と生体情報モニタリング 1) 検体検査 (1) 血液検査 (静脈血採血、動脈血採血、血糖測定) (2) 尿検査 (3) 便検査 (4) 喀痰検査 2) 生体情報モニタリング (1) 心電図モニター (2) SpO ₂ モニター (3) 血管留置カテーテルモニター	講義・学内演習	
6－7. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷治癒のための環境づくり 2) 包帯法 3) 褥瘡処置 (1) 創洗浄と創保護 (2) テープによる皮膚障害	講義・学内演習	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院	評価方法 筆記試験 80% 課題 20%	
参考図書		
受講上の注意 ・検査・処置の介助について事前課題をしっかりとっておくこと ・看護技術は事前練習をして臨むこと		

科目名 臨床看護総論	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 健康レベルの対象の特徴と必要な看護を理解する。 2. 主要な症状を示す看護を理解する。 3. 症状の緩和や治療に伴う看護に必要な技術の方法を習得する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1－3. 1) 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 2) 健康状態の経過に基づく看護 ①健康状態と看護 ②健康の維持・増進を旨とする看護 ③急性期における看護 ④回復期における看護 ⑤慢性期における看護 ⑥終末期における看護	講義	<学内演習> ・体温調節の援助 ・酸素吸入療法の実施 ・ネブライザーを用いた気道内加湿 ・口腔内、鼻腔内吸引
4－9. 主要症状における看護 1) 発熱 2) 脱水 3) 浮腫 4) 褥瘡 5) 意識障害 6) 咳嗽・喀痰・呼吸困難 7) 悪心・嘔吐 8) 痛み(頭痛・胸痛・腹痛・腰痛)	講義・演習	・気管内吸引 ・褥瘡予防ケア ・罨法 ・安楽の促進・苦痛緩和のためのケア
10－14. 臨床看護技術 1) 呼吸・循環を整える技術 ①体温調節の援助 ②酸素吸入療法の実施 ③ネブライザーを用いた気道内加湿 ④吸引(口腔内・鼻腔内吸引、気道内吸引) 2) 安楽確保の技術 ①罨法 ②身体ケアを通じてもたらされる安楽	講義・学内演習	和のためのケア
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 医学書院 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院	評価方法 筆記試験 80% 課題 20%	
参考図書		
受講上の注意		

科目名 看護研究	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 看護研究の意義とプロセス、クリティークの知識を理解し、研究的態度を養う。		
DP との関連 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 看護研究とは 2. 看護研究のリサーチクエスト 3. 文献検索の目的と方法 4. 研究における倫理的配慮 5. 研究デザイン ①量的研究 6. 研究デザイン ②質的研究 7. データの収集 8. データの分析 9-10. 文献の読み方 1) 研究論文のクリティーク 11-12. 研究成果を伝える 1) 看護学会参加 13-14. 研究計画書の作成	講義・演習	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院		評価方法 筆記試験 60%
参考図書 看護研究 step by step 学研 看護における研究 日本看護協会出版会		課題 40%
受講上の留意点 ・看護学会参加（4時間）を含む 学会参加時は、リクルートスタイル、名札着用。 参加費については自己負担とする。		

科目名 基礎看護学実習 I	単位数 1 単位	時間 4 5 時間
第二看護学科：2 年次 7 月		
<p>目標 1. 患者との関わりを通して、関係構築のためのコミュニケーションの基本を学ぶ。 2. 患者の状態の変化に応じた日常生活援助を指導者と共に実施できる。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境及び看護活動の場 2. 受持患者とのコミュニケーション 3. 指導者と共に日常生活援助の実施 4. コミュニケーション場面の振り返り <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

科目名 基礎看護学実習Ⅱ	単位数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：2年次 11月～12月		
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状況や状態から生活のニーズを判断し、適切な日常生活援助を実施することができる。 2. 患者との関わりから、人間関係を築くための自己のコミュニケーションを振り返ることができる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の生活のニーズの判断 2. 患者の状況や状態に応じた日常生活援助 3. 援助の振り返り 4. 患者・家族との良好な関係 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

地域・在宅看護論

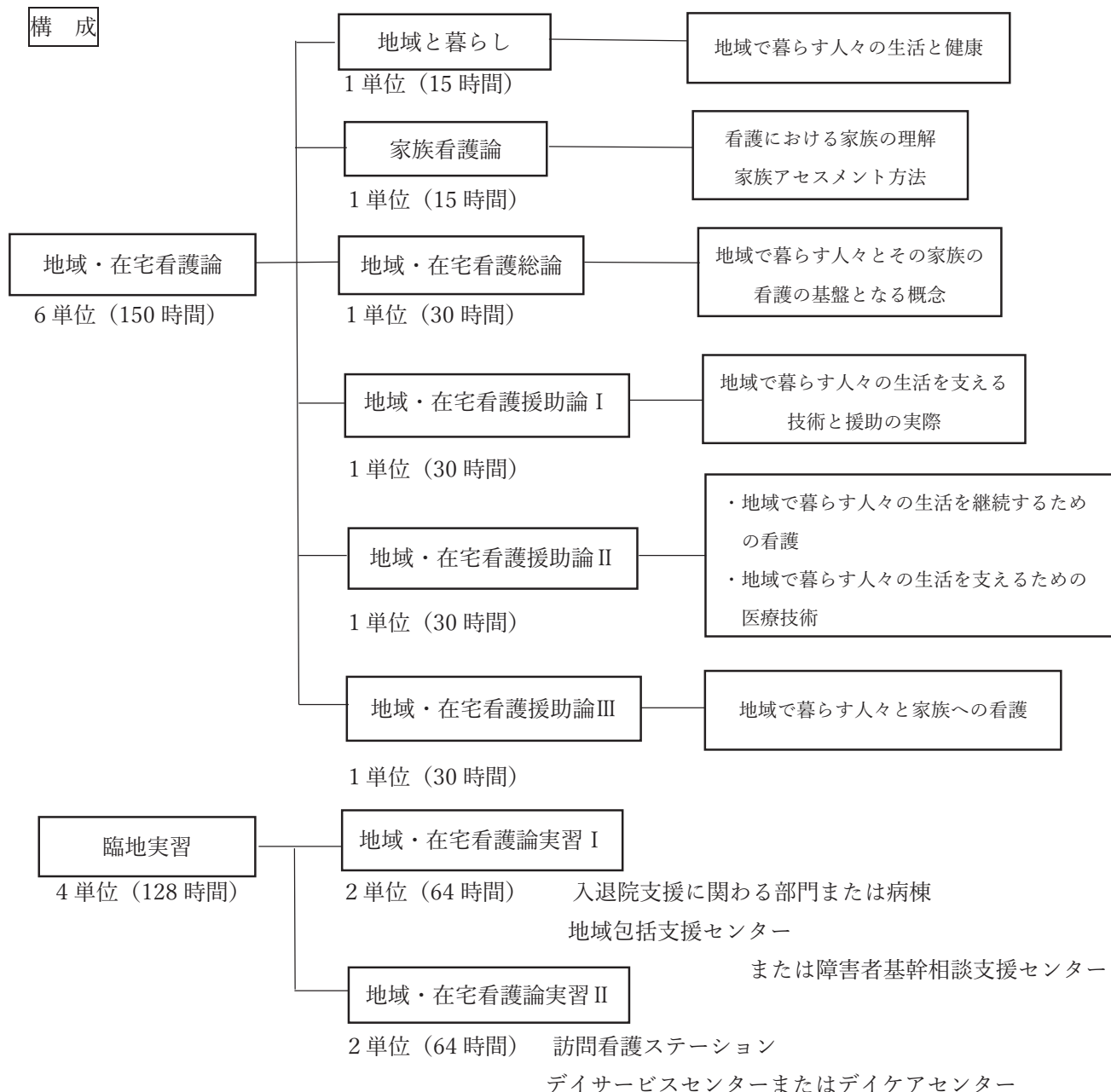
目的

地域で暮らす人々と場を理解し、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために必要な看護の基礎的能力を養う。

目標

1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する
2. 家族看護を実践するために必要な知識・援助方法を学び、家族看護を理解する
3. 地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解する
4. 暮らしを支える看護に必要な法・制度・施策を理解し、活用方法を考える
5. 看護が提供される多様な場を理解する
6. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントを理解する
7. 地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支える看護について理解する

構成



科目名 地域と暮らし	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 専任教員*	
科目のねらい・授業目標 1. 地域の文化や生活に興味・関心を持つことができる。 2. 地域での暮らしを知ることができる。 3. 暮らしの場で人と人が繋がり合っていることを理解する。 4. 地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。			
	授業内容	方法	備考
1. 暮らしの基盤としての地域 1) 暮らしとは・暮らしと健康の関係・暮らしと地域 2) 地域の特性を示すデータについて 3) 地域で健康的に暮らすための課題 地域で生活する人々の語りや暮らし 1) 文化的環境（祭り、地域活動、伝統など） 2) 社会的環境（公民館、民生委員など） 3) 自然環境（人口、山岳地帯、気象、住環境など） 2-3. 地域に暮らす地域・在宅看護の対象 1) ライフステージによる多様性 2) 健康レベルの多様性 3) 生活に視点をおき、文化的環境、社会的環境、自然環境もふまえ考える 4～7. 地域（石川県）に暮らす人々の生活 生活に視点をおき、文化的環境、社会的環境、自然環境もふまえ考える 8 地域に暮らす人々の生活まとめ	講義 演習 講義 演習 講義 演習 演習	グループワーク <事前学習> 家族などへのインタビュー調査 フィールドワーク 鞍月地区を探索 （グループ制） マップ作成 グループワーク 発表会 <夏季休業中課題> 能登、金沢、加賀地区に出向き、調査	
使用する図書 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院	評価方法 発表会内容		
参考図書	課題 グループ学習参加態度		
受講上の注意 グループで課題に取り組む。グループでの取り組みを発表し、学びを共有する。			

参考図書	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	医学書院
	家族看護学 理論と実践 第5版	日本看護協会出版会
受講上の注意		

7.	地域での暮らしにおける災害対策	講義	臨床看護師 (専任教員の筆記試験に含む)基盤:第4章 G
8. 9.	地域で暮らし続けるための支援① 1) 退院調整、退院支援、継続看護 2) 多職種連携・協働	講義	臨床看護師・多職種 (専任教員の筆記試験に含む) 参照:基盤 第5章 B6・7、C 実践 第6章A・B1・2
10. 11.	地域で暮らし続けるための支援② 1) 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ・医療保険制度 2) 訪問看護の制度 ・訪問看護制度の歩み ・訪問看護の対象者の特徴 ・訪問看護の利用者と訪問回数 ・訪問看護のステーションに関する規程 ・訪問看護の利用までの手順、費用 ・訪問看護サービスの提供	講義	訪問看護師 (専任教員の筆記試験に含む) 基盤:第6章 A2、C1～7
12-14.	地域で暮らし続けるための支援③ 1) 介護保険制度について 2) ケアマネジメントと社会資源の活用 3) ケアマネージャーの活動と役割 4) 介護予防ケアプランの作成について	講義	介護支援専門員 (授業時間と別に筆記試験) 基盤 第6章 A・C8 参照:第5章 C、 実践:第6章 B3
15.	まとめ・試験	筆記試験	
使用図書 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			評価方法 専任教員 筆記試験 80% 課題 20% 介護支援専門員 筆記試験
参考図書 家族看護学 理論と実践 第5版 日本看護協会出版会			
受講上の注意			

科目名 地域・在宅看護援助論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 専任教員*	
科目のねらい・授業目標 1. 地域・在宅看護の対象者とその家族への理解を深める。 2. 地域・在宅看護で必要とされる生活援助技術を理解する。 3. 地域で生活する人々と家族の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護について理解する。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	授業内容	方法	備考
1-2. 訪問看護ステーションの仕組み ・仮想訪問看護ステーション設立	講義 演習	・グループで訪問看護ステーションを設立する	
3-5. 地域で暮らす人々の生活を支える在宅看護技術① ・暮らしの場での看護に必要な接遇と面接技術 ・在宅における観察、アセスメント	講義 演習	・訪問場面を設定し、面接技術と生活援助のロールプレイ ・3～14.の演習においては訪問看護ステーション設立グループで演習を行う	
6-14. 地域で暮らす人々の生活を支える在宅看護技術② ・食事・排泄・清潔・衣生活・移動、移乗・服薬管理について事例にあった生活援助	講義 演習	<事前課題> 夏季休業中に各自が福祉用具施設を見学し、まとめる。(移動・移乗の講義・演習にて使用する)	
15 試験	筆記試験		
使用図書 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ		評価方法 筆記試験 80% 課題 20%	
参考図書			
受講上の注意			

科目名 地域・在宅看護援助論Ⅱ	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 保健師* 臨床看護師* 訪問看護師* リハビリテーション関係者* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 地域・在宅看護の対象者とその家族への理解を深める。 2. 地域で生活する人々と家族の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護について理解する。 3. 地域・在宅看護における場で長く暮らし続けるための看護実践について理解する。 4. 地域・在宅看護で必要とされる医療処置を理解する。		
DP との関連 1. 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 2. 地域で暮らし続けるための支援の実際① 1) 地域の特色及び地域で生活する人々と家族のヘルス ニーズ 2) 支援の実際 3) 関係機関、職種との連携の実際 4) 保健師の役割と機能	講義	保健師 (専任教員の筆記試験に含 む) 専任教員
3. 4. 地域で暮らし続けるための支援の実際② 1) 在宅リハビリテーション 2) 福祉用具の選定基準と活用方法	講義	リハビリテーション関係 者 (専任教員の筆記試験に含 む) 実践:第2章 E2a.b
5. 6. 地域で暮らし続けるための支援の実際③ 1) 地域での暮らしにおけるリスク ・暮らしにおけるリスク 2) 地域・在宅看護における安全をまもる看護 ・療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 ・地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義	臨床看護師 (専任教員の筆記試験に含 む) 基盤:第4章 F 実践:第2章 D1・2・3
7~9. 地域で暮らし続けるための支援の実際④ 1) 終末期にある対象者とその家族 2) グリーフケア	講義	訪問看護師 (時間外試験あり) 参照:実践:第3章 H・第 4章 I、第6章 B2

<p>10-12. 地域で暮らし続けるための支援の実際⑤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経管栄養法（経鼻・胃瘻）を受ける療養者の援助 2) 在宅中心静脈栄養法を受ける療養者の援助 3) 尿道留置カテーテルの管理とケア 4) ストーマの管理とケア 5) 在宅酸素療法を受ける療養者の援助 6) 在宅人工呼吸器療法を受ける療養者の援助・ 7) 創傷管理（皮膚トラブル・褥瘡予防とケア）に関する援助 	<p>講義</p>	<p>訪問看護師 （専任教員の筆記試験に含む） 実践：第2章 E3 e・ f、E4、E7、E8</p>
<p>13.14. 地域で暮らし続けるための支援の実際</p>	<p>講義</p>	<p>専任教員</p>
<p>15. 試験・まとめ</p>	<p>演習 筆記試験</p>	
<p>使用図書 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ</p>	<p>評価方法 訪問看護師 筆記試験</p>	
<p>参考図書</p>	<p>専任教員 筆記試験</p>	
<p>受講上の注意</p>	<p>レポート課題</p>	

科目名 地域・在宅看護援助論Ⅲ	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 専任教員*	
科目のねらい・授業目標 1. 暮らしの場で行われる治療と看護を理解する。 2. 地域に暮らす人々と家族に対する看護援助の方法を理解し、地域で暮らし続けることを考える。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	授業内容	方法	備考
1. 2～5. 6～9. 10～13. 14. 15.	地域・在宅看護における看護過程 ・看護過程の基本、特徴 地域・在宅看護における時期別の看護 ・外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の特徴 地域で暮らす人々と家族への看護① —慢性疾患をもつ療養者とその家族の看護:療養生活における課題への看護展開— ・医療機器の管理方法、日常生活指導、意思決定支援、多職種連携・協働 地域で暮らす人々と家族への看護② —終末期にある人とその家族の看護:苦痛のない生活維持のための看護展開— ・今後おこりうることの把握と対処方法、医療処置、意思決定支援、多職種連携・協働 地域で暮らす人々と家族への看護③ —難病で療養生活を送る人とその家族の看護:進行、変化に合わせた看護展開— ・ADL の低下とセルフケアへの支援 ・今後予測される症状に対する医療処置への意思決定支援、社会資源と多職種連携・協働 地域で暮らす人々と家族への看護④	講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習 演習	 グループワーク グループワーク グループワーク 発表会
使用図書 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ	評価方法 筆記試験 60% 課題 40%		

参考図書	
受講上の注意 グループでの取り組みを発表し、学びを共有する。	

科目名 地域・在宅看護論実習 I	単位数 2 単位	時間 64 時間
第二看護学科：4 年次 6 月～10 月		
<p>目的</p> <p>地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2) 地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解する。 3) 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を深める。 4) 地域で生活する人々と、その家族（介護者）の在宅看護の実際から、地域・在宅看護のあり方を考える。 <p>地域・在宅看護論実習 I－1</p> <p>【地域包括支援センターまたは障害者基幹相談支援センター】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と施設を利用する人々を理解する。 2. 地域のケアニーズを把握し、対象者に応じた支援を理解する。 <p>地域・在宅看護論実習 I－2</p> <p>【入退院支援に関わる部門または病棟】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入退院支援に関わる部門の役割を理解する。 2. 保健・医療・福祉領域の関係機関・関係職種の連携機能と社会資源を理解する。 3. 対象が安心して地域で暮らすために、地域で生活している人々とその家族の特性を踏まえた看護実践を理解する。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

科目名 地域・在宅看護論実習Ⅱ	単位数 2単位	時間 64時間
第二看護学科：4年次 6月～10月		
<p>目的</p> <p>地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2) 地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解する。 3) 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を深める。 4) 地域で生活する人々と、その家族（介護者）の在宅看護の実際から、地域・在宅看護のあり方を考える。 <p>地域・在宅看護論実習Ⅱ－1</p> <p>【訪問看護ステーション】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している人々と家族を生活者として捉え、生活のなかでの支援の実際を理解する。 2. 地域で療養している人々の生活と健康上の問題、家族関係を理解する。 3. 関係機関・関係職種との連携・協働について学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。 <p>地域・在宅看護論実習Ⅱ－2</p> <p>【デイサービスセンターまたはデイケアセンター】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デイサービスセンター・デイケアセンターを利用している人々を理解する。 2. 利用者の自立と生活習慣に応じた援助の実際を理解する。 3. 地域で暮らす人々と家族を支援する施設の役割と看護の役割について理解する。 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

成人看護学

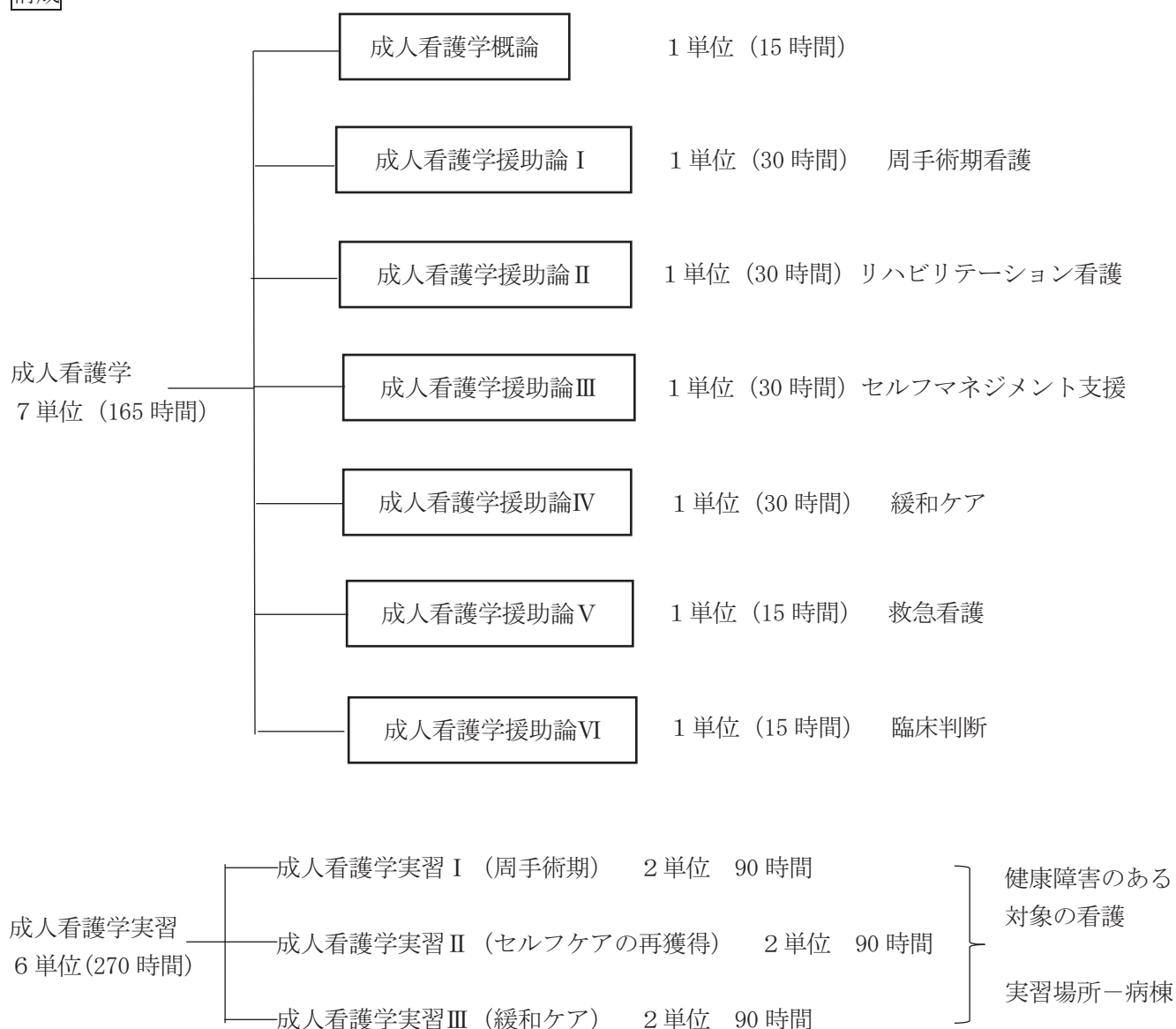
目的

成人期にある対象を理解し、発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目標

1. 地域で生活する成人期にある対象の各発達段階の特徴を知り、身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する。
2. 成人保健の動向を知り、成人期にある対象の最適な健康の重要性とその状況に応じた看護を理解する。
3. 地域で生活する成人期の対象および家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。
4. 成人期にある対象の健康上の問題を理解し、看護を実践できる知識・技術・態度を習得する。
5. 対象の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践できる。

構成



<p>使用する図書 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p>	<p>評価方法 筆記試験 80%</p>
<p>参考図書 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 基礎から学ぶ健康管理論 南江堂</p>	<p>レポート課題 20%</p>
<p>受講上の注意 本科目の授業内容に関連する既習知識を復習した上で出席すること</p>	

科目名 成人看護学援助論 I (周手術期看護)	時間数 1単位 30時間 時期 2年次 後期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 周手術期の概念を理解する。 2. 手術を受ける対象と家族の特徴と術前・術中・術後を通した看護について理解する。 3. 手術中の対象の特徴と麻酔、手術室環境及び手術中に必要な看護を理解する。 4. 突然の状態変化が起こった対象と家族の特徴及び救命に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての看護を理解する。 5. 手術侵襲による身体の変化をアセスメントし、合併症の予防ならびに回復過程を促す援助について理解する。 6. 手術で身体の一部を喪失することにより、形態・機能的変化がありながらも地域で生活していくことを支える援助について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 周手術期の概念 1) 周術期の体験 2) 外科的侵襲から回復期の生体反応 3) 外科的侵襲の種類 2～3. 手術前の看護・外来と病棟間の連携 1) 主体的な治療参加への支援 (1)意思決定のサポート (2)インフォームドコンセントの支援 (3)ボディイメージの受容や心理的ストレスへの対処に向けた援助 2) リスクアセスメント (1)全身状態のアセスメント (2)全身状態を整える 3) 手術による術後の生活の予測 (日常生活への影響)	講義・演習	専任教員 事例検討 手術療法を受ける患者の看護 実習記録を用いて対象の理解と術後合併症を予防するために必要な援助の検討を行う
4～5. 手術中の看護 1) 手術中の対象の特徴 2) 手術中の看護目標 3) 手術室の環境・安全管理 4) 入室時の看護 5) 麻酔導入時の看護 6) 手術中の看護の実際	講義	臨床看護師
6～7. 突然の状態変化に対する看護 1) 突然の状態変化が起こった対象の特徴 2) 突然の状態変化が起こった対象、家族への看護 3) 気管内挿管時の看護 4) 気管切開に伴う看護 5) 人工呼吸器装着時の看護	講義	臨床看護師

科目名 成人看護学援助論Ⅱ (リハビリテーション看護)	時間数 1単位 30時間 時期 2年次 前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. リハビリテーションの概念を理解する。 2. 障害をもつ対象と家族を理解する。 3. リハビリテーションを必要とする対象への看護の役割と援助を理解する。 4. 障害を持ちながらも地域で生活していくことを支える看護を理解する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. リハビリテーションの概念と領域 リハビリテーション看護の概要 2. リハビリテーション看護の対象と法制度 ステージ別リハビリテーション看護 3～4. リハビリテーション看護を実践するための対象理解 1) リハビリテーションを阻害する要因と促進する要因 2) 対象理解を深めるための理論・概念 3) 障害を持つ人の心理的問題 4) 療養生活を支える家族への援助 5) 社会資源の活用 6) リハビリテーション看護における倫理的課題 5～6. 障害がある人の生活とリハビリテーション 1) 関連職種とチームアプローチ 2) リハビリテーションチームの中での看護師の役割 3) リハビリテーション看護のプロセス	講義・演習	専任教員 視聴覚教材を使用 (DVD)
7～11. リハビリテーションを必要とする対象と家族への看護の 実際		
1) 脳血管障害のある対象の看護	講義	臨床看護師
2) 運動器系に障害のある対象の看護	講義	臨床看護師
3) 身体機能の一部を喪失した対象の看護 ①人工肛門を造設した患者の看護	講義	臨床看護師
②人工肛門を造設した患者の生活と人工肛門管理の実際	学内演習	専任教員 学内演習 ・人工肛門管理
③乳房切除術を受けた患者の看護	講義	臨床看護師

<p>12～14. 生活者として対象を支えるリハビリテーション看護</p> <p>1) リハビリテーションを必要とする対象と家族の理解</p> <p>2) リハビリテーションを続けながら地域でその人らしく生活するための支援</p>	<p>演習</p>	<p>専任教員 事例検討 リハビリテーションを必要としながら地域で生活する対象を支える看護</p>
<p>15. 試験</p>	<p>筆記試験</p>	<p>専任教員</p>
<p>使用する図書</p> <p>1. ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護 メディカ出版</p> <p>2. 系統看護学講座 消化器 成人看護学5 医学書院</p> <p>3. 系統看護学講座 脳・神経 成人看護学7 医学書院</p> <p>4. 系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学9 医学書院</p> <p>5. 系統看護学講座 運動器 成人看護学10 医学書院</p> <p>6. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>7. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院</p>		<p>評価方法</p> <p>※専任教員 筆記試験 80% 課題 20%</p>
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院</p> <p>ナーシング・グラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 第3版 メディカ出版</p> <p>緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院</p> <p>病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>本科目の授業内容に関連する既習知識を復習した上で出席すること</p>		

<p>使用する図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ セルフマネジメント メディカ出版 2. ナーシング・グラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 3. 系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② 医学書院 4. 系統看護学講座 循環器 成人看護学③ 医学書院 5. 系統看護学講座 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 6. 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 7. 系統看護学講座 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 8. 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学⑩ 医学書院 	<p>評価方法</p> <p>筆記試験 80%</p> <p>課題 20%</p>
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p> <p>緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院</p> <p>病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院</p>	
<p>受講上の注意</p> <p>本科目の授業内容に関連する既習知識を復習した上で出席すること</p>	

<p>13～14. 緩和ケアを受けながら生活する対象の看護</p> <p>1) 緩和ケアにおけるコミュニケーションと看護師の役割</p> <p>2) 身体的苦痛の緩和と心の安寧に向けた援助</p>	<p>演習</p>	<p>事例検討</p> <p>緩和ケアを受けながら生活する対象への看護プロセスレコード</p>
<p>15. 試験</p>	<p>筆記試験</p>	<p>専任教員</p>
<p>使用する図書</p> <p>1. ナーシング・グラフィカ 緩和ケア メディカ出版</p> <p>2. 系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② 医学書院</p> <p>3. 系統看護学講座 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院</p> <p>4. 系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院</p> <p>5. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>6. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院</p>		<p>評価方法</p> <p>筆記試験 80%</p> <p>課題 20%</p>
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 がん看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座 緩和ケア 医学書院</p> <p>緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院</p> <p>病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>本科目の授業内容に関連する既習知識を復習した上で出席すること</p>		

科目名 成人看護学援助論Ⅴ（救急看護）	時間数 1単位 15時間 時期 3年次 前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 救急看護の定義と救急看護の場を理解する。 2. 救急看護を受ける対象とその家族の理解と看護の基本を理解する。 3. 基本的な救命救急処置の方法を理解し、紙上事例で模擬的に実践することができる。		
1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び多職種の役割や他の職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 救急看護の概念 1) 救急看護の概念 2) 救急看護の場と他職種連携 2～3. 救急看護をうける対象への看護 1) 救急看護をうける対象の理解 2) 救急看護体制と看護の実際 3) 救急看護における観察・アセスメントの特徴 4) 救急時における基本的処置 5) ショック時の看護	講義	臨床看護師 ※時間外テスト
4～5. 傷病者のBLS 1) 事例提示 2) BLSの実施 6～7. 止血法 8. 人工呼吸器の管理	学内演習	専任教員 学内演習 ・BLS ・緊急時の応援要請 ・止血法の実施 ・人工呼吸器の操作、管理
使用する図書 1. 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 3. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 参考図書 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院		評価方法 ※臨床看護師 筆記試験 ※専任教員 ルーブリックによる評価
受講上の注意		

科目名 成人看護学援助論Ⅵ（臨床判断）	時間数 1単位 15時間 時期 3年次 前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 術後の患者の状態に応じて、必要な看護援助とその根拠を理解できる。 2. 術後の患者に生じている事象に気づき、即座に分析・解釈し、看護援助に反映できる		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 事例患者の術後合併症の危険性及び看護援助の方向性 1) 術後の生体反応と術後侵襲、術後の回復過程 2) 術後合併症を予防する援助と意味づけ	確認テスト 講義・演習	※評価外
2～3. 術後の状態に応じた援助の判断と実施① 1) 離床を阻害する因子 2) 術後合併症を予防する援助の実施 3) 患者の反応への気づきと分析・解釈、反応 4) 援助の結果（患者に与えた影響）の省察	演習	シミュレーション演習
4～5. 術後の状態に応じた援助の判断と実施② 1) 離床に伴うリスクアセスメント 2) リスクアセスメントに基づいた援助の実施 3) 患者に生じている事象への気づきと分析・解釈、反応 4) 援助の結果（患者に与えた影響）の省察と報告	演習	シミュレーション演習
6～7. 術後患者の日常生活援助と診療の補助技術	学内演習	<学内演習> ・術後患者の寝衣交換 ・ドレーン挿入部の処置
8. 術後患者の臨床判断の実際	演習	
使用する図書 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2. ナーシング・グラフィカ 成人看護学4 周術期看護 メディカ出版		評価方法 シミュレーション学習 80% (ルーブリックによる評価) 課題 20%
参考図書 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院		
受講上の注意 成人看護学援助論Ⅰの紙上事例を使用する 本科目の授業内容に関連する既習知識を復習した上で出席すること 開講前に事前課題を課す場合がある		

科目名 成人看護学実習Ⅰ（周手術期）	単位数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：3年次 5月～2月		
<p>目的 成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、社会復帰に向けて対象及びその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を総合的に理解する。 2. 成人期にある対象の最適な健康の重要性を理解し、その状況に応じた看護を理解する。 3. 成人期にある対象の意思決定を支え、健康状態に合わせた看護が実践できる。 4. 生活する成人期の対象及び家族を支える医療、継続看護の重要性を理解する。</p> <p>【成人看護学実習Ⅰ（周手術期）】</p> <p>目的 周手術期にある対象の特徴を理解し、生命維持、健康回復への援助を学ぶ。</p> <p>目標 1. 周手術期にある対象の病態や治療とその影響について理解できる。 2. 手術を受ける対象と家族の特徴と術前・術中・術後を通じた看護について理解する。 3. 手術侵襲による身体の変化をアセスメントし、合併症の予防ならびに回復過程を促す援助が実践できる。 4. 手術で身体の一部を喪失することにより、形態・機能的変化がありながらも地域で生活していくためにセルフケアできるよう支える援助が実践できる。</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

科目名 成人看護学実習Ⅱ（セルフケアの再獲得）	単位数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：3年次 5月～2月		
<p>目的 成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、社会復帰に向けて対象及びその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を総合的に理解する。 2. 成人期にある対象の最適な健康の重要性を理解し、その状況に応じた看護を理解する。 3. 成人期にある対象の意思決定を支え、健康状態に合わせた看護が実践できる。 4. 生活する成人期の対象及び家族を支える医療、継続看護の重要性を理解する。</p> <p>【成人看護学実習Ⅱ（セルフケアの再獲得）】</p> <p>目的 成人期にある対象の特徴を理解し、その人らしい生活を維持するために必要となるセルフケアの再獲得を支援する看護について学ぶ</p> <p>目標 1. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を統合的に理解できる。 2. 対象のその人らしい生活とその実現に向けて必要なセルフケアについて理解できる。 3. 対象の意思を尊重し、成人期としての強みを活かしたセルフケアの再獲得を支援できる。 4. 対象がセルフケアを再獲得できるよう多職種で支援し、看護を継続することの必要性を理解できる</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

科目名 成人看護学実習Ⅲ（緩和ケア）	単位数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：3年次 5月～2月		
<p>目的 成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、社会復帰に向けて対象及びその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を総合的に理解する。 2. 成人期にある対象の最適な健康の重要性を理解し、その状況に応じた看護を理解する。 3. 成人期にある対象の意思決定を支え、健康状態に合わせた看護が実践できる。 4. 生活する成人期の対象及び家族を支える医療、継続看護の重要性を理解する。</p> <p>【成人看護学実習Ⅲ（緩和ケア）】</p> <p>目的 成人期にある対象の特徴を理解し、対象が抱えるさまざまな苦痛を和らげ、その人らしくより豊かに生活できるように支援する看護について学ぶ。</p> <p>目標 1. 病が対象の日常生活に与える影響について統合的に理解できる。 2. 対象が抱えるさまざまな苦痛を捉え、苦痛の緩和及びQOLの維持向上を図り、その人らしく生活できるような援助ができる。 3. 苦痛の緩和に向けて、対象者及び家族を多職種連携で支援することの重要性が理解できる。 4. 対象との関わりを通して、その人の価値観や意思を尊重した看護実践について理解できる。</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

老年看護学

目的

老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや環境下にある高齢者に対して、その人が望む人生の統合に向けて支援するために必要な基礎的能力を養う。

目標

1. ライフステージのなかの老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
2. 高齢者の健康課題を理解し、継続的・予防的な看護活動の必要性と看護の方法を理解できる。
3. 老年期の健康と QOL について理解を深め、高齢社会における老年看護の役割について理解できる。
4. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、その他の専門職との連携について知る。
5. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助が出来る。
6. 生活機能の障害が家族の機能にどのような影響を及ぼしているのかを理解できる。
7. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。
8. 高齢者の生活史について理解を深め、自己の高齢者観を養う。

構成

老年看護学 4 単位（105 時間）

老年看護学概論Ⅰ	ライフサイクルにおける高齢者/加齢に伴う各種機能の変化
1 単位（30 時間） 専任教員	高齢者の生活/高齢者の看護が行われる場
老年看護学概論Ⅱ	高齢社会の現状/保健・医療・福祉のシステム
1 単位（15 時間） 保健師又はソーシャルワーカー	
老年看護学援助論Ⅰ	高齢者の生活機能に関わる看護/治療を受ける高齢者の看護
1 単位（30 時間） 臨床看護師・専任教員	
老年看護学援助論Ⅱ	認知機能に障害のある高齢者の看護/加齢特有の症状に関わる看護
1 単位（30 時間） 臨床看護師・専任教員	介護が必要な高齢者の看護

老年看護学実習 4単位（180時間）

—	老年看護学実習 I	入院治療を受ける高齢者の看護
	2単位90時間	実習場所—病棟
—	老年看護学実習 II	地域で暮らす高齢者の看護
	2単位90時間	実習場所—介護老人保健施設・介護老人福祉施設

科目名 老年看護学概論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 高齢者に対する関心をもち、高齢者観を養う基礎とすることができる。 2. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解し、支援のあり方を考えることができる。 3. 高齢者の看護が行われる場とその場での看護の役割を理解する 4. 老年看護のめざすものについて考えることができる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. ～2. ライフサイクルにおける高齢者、加齢と老化、発達課題 概念の活用	講義	
3. 高齢者の生きてきた社会の出来事調べ	GW	課題①高齢者の 生活史インタビュー
4. 高齢者の生きてきた社会の出来事調べ発表 インタビューから学んだこと発表		
5. 6. 加齢に伴う生理機能の変化、疾病をめぐる特徴 加齢に伴う身体的変化・心理的变化と暮らしへの影響	講義 GW	
7. 加齢に伴う身体的変化・心理的变化と暮らしへの影響について発表	GW	
8. 9. 高齢者疑似体験 高齢者疑似体験をふまえて看護に活かしたいこと	演習 GW	場所：屋外 在宅実習室
10. 高齢社会の現状と動向、加齢に伴う社会的変化と暮らしへの影響	講義	
11. 健康の維持と介護予防、地域で行われている取り組み	講義	課題②地域の ニュース調べ
12. 高齢者の権利擁護（高齢者差別・高齢者虐待・身体拘束）	GW	
13. 高齢者の看護が行われる場と看護の役割 高齢者におけるエンドオブライフケア	講義	
14. 老年看護のめざすものと私の高齢者観	GW	課題③高齢者に 関する本・映画・番組
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院		評価方法 筆記試験 70% 課題 30%
参考図書 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 高齢社会白書 内閣府		
受講上の注意		

科目名 老年看護学概論Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 保健師又は ソーシャルワーカー*
科目のねらい・授業目標 1. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療における現状を理解する。 2. 高齢社会での保健・医療・福祉制度の動向やその特徴、多様化する職種とその役割を理解する。 3. 制度に基づいた各種サービスの内容と取り組みについて理解し、その活用を考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
	授業内容	方法 備考
1. 高齢者保健の現状・医療の動向	講義	
2～4. 高齢社会における保健医療福祉制度 ・老人福祉法 ・高齢者の医療の確保に関する法律 ・高齢社会対策基本法 ・介護保険制度		
5～6. 在宅・施設サービスの構成と取り組み 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化		
7. 治療・介護を必要とする高齢者の家族への支援 高齢者の人権に関する制度（成年後見制度と日常生活自立支援事業）		
8. 試験（45分）	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会	評価方法 筆記試験	参考図書 厚生労働白書 厚生労働省 高齢社会白書 内閣府 社会保障の手引き 中央法規 高齢者福祉関係法令通知集 第一法規
受講上の注意		

科目名 老年看護学援助論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次 後期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 生活機能の視点から、日常生活動作や転倒転落リスクについてのアセスメントと看護を理解する。 2. 高齢者の健康上の問題や疾病をめぐる特徴をふまえ、生活に視点をあてたアセスメントと看護について理解する。 3. 高齢者の疾患の現れ方と特徴、徴候のアセスメントを知り、主要症状や経過に応じた看護の方法について理解する。 4. 薬物療法・外科的治療における患者の身体的課題を心理的側面との関連を考えながら理解する。また、看護に必要なアセスメントと援助の方法を理解する。 5. 老年期の主な疾患とその治療に伴う看護の方法を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 日常生活動作能力のアセスメントと援助の方法 ICF、CGA、ADL、IADL、障害高齢者の日常生活自立度判定基準、 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、歩行・移動・姿勢保持	講義	専任教員
2. 生活機能維持のための転倒・骨折予防 リスク要因とアセスメント、転倒予防における援助（病院・地域） 転倒発生時の対応、転倒事例から考える援助		
3～6. 高齢者の日常生活のアセスメントと看護 食生活／排泄／清潔・身だしなみ・衣生活／活動と休息	講義 演習	
7～10. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助 1) コミュニケーション能力のアセスメントと看護 難聴、視力障害、言語障害（失語症・構音障害） 2) かゆみのアセスメント 3) 脱水 4) 褥瘡	講義	
11. 薬物療法を受ける高齢者の看護		
12. 外科的治療を受ける高齢者の看護		
13. 14. 主な疾患の看護 1) 白内障 2) 前立腺肥大症 3) 骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折	講義	臨床看護師 ※時間外、試験あり
15. 試験	筆記試験	専任教員
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院		評価方法 臨床看護師 筆記試験
参考図書 高齢者生活機能評価ガイド 医歯薬出版株式会社		専任教員 筆記試験 80% 課題 20%
受講上の注意		

科目名 老年看護学援助論Ⅱ	時間数 1単位 30時間 時期 3年次 前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 日常生活に介護の必要な認知症高齢者への援助の視点と方法を理解し、長年生きてきた生活過程を尊重した関わりを考えることができる。 2. 生活の不活発がみられる高齢者への援助の視点と方法を理解し、要介護状態の重度化を予防する看護について考えることができる。 3. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメントの視点や健康レベルに応じた援助の方法を理解する。 4. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、その人のQOLを高める援助を考え、もてる力や潜在している力を生かし、その人にとっての自立へ向けた生活を送れるように考える。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～6. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) 認知症 (1) 認知症とは、認知症の症状、認知症の病態 (2) 認知症の診断、治療、予防、認知機能及び生活機能の評価 (3) 認知症の看護ケアの実際 ①コミュニケーション ②環境・日常生活へのケア ③行動・症状への対応 ④家族への支援 2) うつ・せん妄 疾患の特徴と要因、症状と生活への影響のアセスメント、予防、治療と援助	講義	臨床看護師 ※時間外、試験あり
7～9. 生活が不活発な状態にある高齢者の看護 1) 生活の不活発と廃用症候群 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護 2) 介護が必要な高齢者の看護の実際 ①生活機能回復や重度化予防に向けた看護 ②地域で暮らすための支援、多職種連携 ③家族への援助	講義	臨床看護師 ※時間外、試験あり
10～15. 事例を通して看護の展開 地域で暮らす高齢者が入院治療を受け、地域（介護老人保健施設）へ ・看護展開の視点 ・個別の日常生活能力、目標に合わせた援助 ・退院支援	講義 演習	専任教員 （関節可動域訓練等）
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院	評価方法 臨床看護師 筆記試験 専任教員 課題	
参考図書 系統看護学講座 老年看護学 病態・疾患論 医学書院		
受講上の注意		

科目名 老年看護学実習Ⅰ	単位数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：3年次 1月～3月		
<p>【老年看護学実習】</p> <p>目的 高齢者の特徴を理解し、健康上の諸問題をもつ高齢者及びその家族に対して、健康の保持とQOLを向上させるための看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解する。 2. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、多職種連携、継続看護について知る。 3. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助ができる。 4. 健康や生活の支えとなっているもてる力や潜在している力を最大限に引き出す援助ができる。 5. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</p> <p>【老年看護学実習Ⅰ】</p> <p>目標 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象を総合的に理解する。 2. 高齢者の日常生活が入院治療によって、どのような影響を受けているかがわかる。 3. 健康や生活の支えとなっているもてる力や潜在している力を最大限に引き出し、その人にとっての自立へ向けた援助ができる。 4. 高齢者及び家族を支える医療、多職種連携、継続看護の実際を知る。 5. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</p> <p>【病棟】</p> <p>1. 対象理解 2. 対象者のアセスメントと看護の方向性 3. もてる力や潜在している力を活かした援助の実施 4. 対象者の退院後の生活を見据えた援助の実施 5. 対象者に応じた社会資源の活用や多職種連携の必要性和継続看護</p> <p>【臨床講義】</p> <p>1. 患者総合支援センターの概要と主な業務</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

科目名 老年看護学実習Ⅱ	単位数 2 単位	時間 90 時間
第二看護学科：4 年次 4 月～7 月		
<p>【老年看護学実習】</p> <p>目的 高齢者の特徴を理解し、健康上の諸問題をもつ高齢者及びその家族に対して、健康の保持とQOLを向上させるための看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解する。 2. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、多職種連携、継続看護について知る。 3. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助ができる。 4. 健康や生活の支えとなっているもてる力や潜在している力を最大限に引き出す援助ができる。 5. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</p> <p>【老年看護学実習Ⅱ】</p> <p>目標 1. 高齢者への関心を持ち、その人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。 2. 対象一人ひとりに応じた日常生活への援助ができる。 3. 施設で生活する高齢者を理解し、看護の役割を考えることができる。 4. 施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び多職種連携の実際を知る。 5. 地域における介護老人福祉施設、介護老人保健施設の役割と事業について知る。</p> <p>【介護老人福祉施設】</p> <p>1. 施設に入所中の高齢者の理解（複数の入所者と関わる） 2. 高齢者とのコミュニケーション 3. 対象者の自立の程度や状態に応じた日常生活の援助 4. 介護老人福祉施設の役割、機能 5. 施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び多職種連携の実際と看護の役割</p> <p>【介護老人保健施設】</p> <p>1. 施設に入所中の高齢者の理解（一人を受け持つ） 2. 高齢者とのコミュニケーション 3. 対象者の生活の状況のアセスメント 4. 対象者の自立の程度や状態に応じた日常生活の援助 5. 介護老人保健施設の役割、機能 6. 施設における保健・医療・福祉メンバーの役割及び多職種連携の実際と看護の役割</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

小児看護学

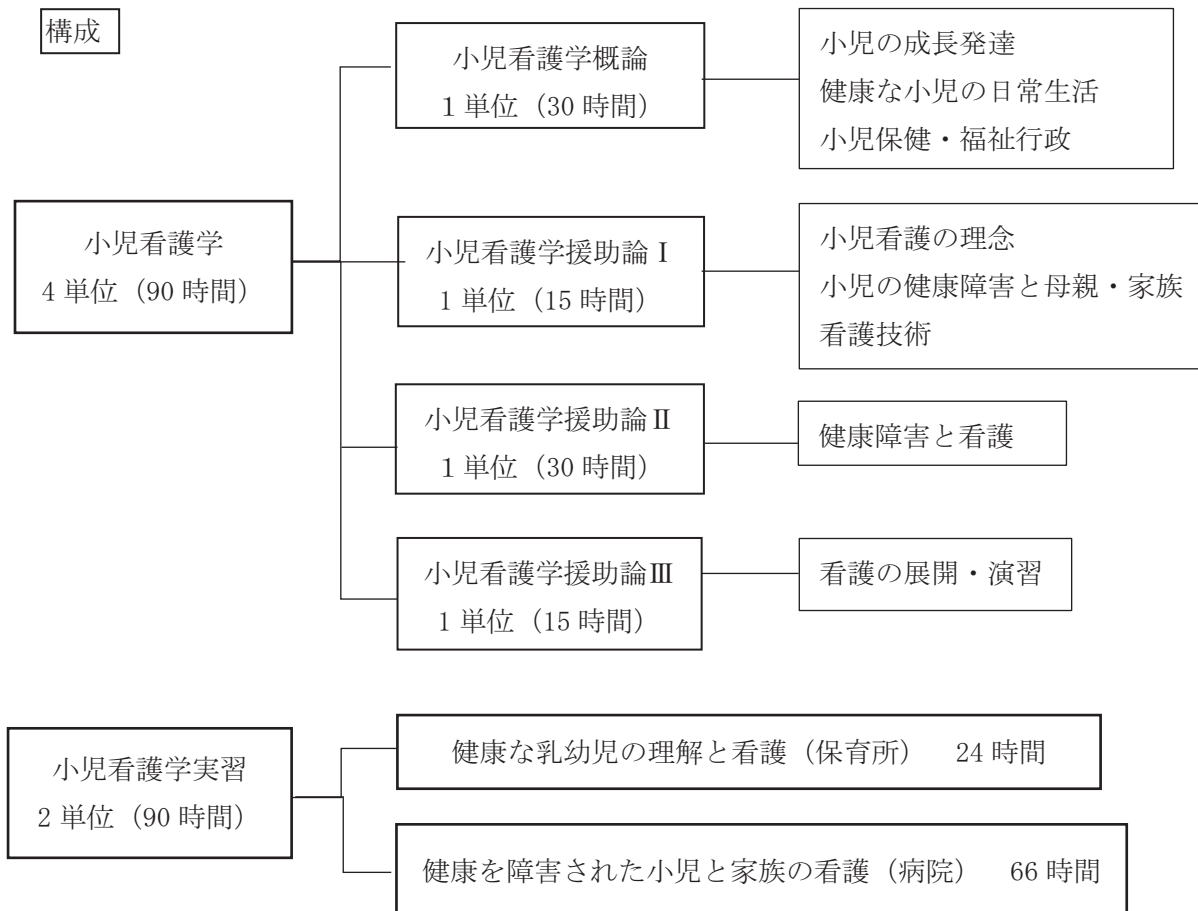
目的

あらゆる健康レベルにある子どもとその家族を対象にし、子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支え、地域でその子らしく生活できるように支援する看護の基礎的能力を養う。

目標

1. 小児各期の成長・発達を理解し、小児看護の対象である地域で生活する子どもとその家族を理解する。
2. 子どもの権利を尊重し、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。
3. 地域で暮らす子どもの日常生活を知り、健やかな成長・発達を支援するための看護を理解する。
4. 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護を理解する。
5. 子どものアセスメントに必要な看護技術を理解する。
6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。

構成



科目名 小児看護学概論	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・子どもへの関心をもち、小児観を養う。 ・小児各期に応じて健やかな成長・発達を支援する看護を理解する。 ・子どもの倫理と権利について考え、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。 ・子どもと家族を取り巻く社会の変化を知り、子どもとその家族に及ぼす健康問題について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践できる。		
授業内容	方法	備考
1. 小児看護とは 小児観、小児看護・医療の変遷、対象・場・役割	講義	事前学習課題： 子どもの成長発達
2. 小児看護における権利・倫理		レポート課題①： 児童憲章、子どもの
3. 子どもの成長・発達の原則とアセスメント		権利条約について
4～9. 小児各期の成長・発達に応じた生活への支援 機能的発達、精神・運動の発達、発達理論 小児各期の形態的・身体生理の特徴、日常生活、 心理・社会的特徴 子どもの成長・発達に応じた遊びの援助	講義・演習① 演習②	演習①小児各期の成長・発達に応じた生活への支援 (GW) 演習②遊びの企画書作成・実施 (GW)
10. 子どもにとっての家族	講義	演習③子どもと家族を取り巻く環境の変化と課題 (GW・発表)
11～14. 子どもと家族を取り巻く社会環境の変化と課題 法律・施策・社会資源・予防接種 地域の子どもの生活と健康問題	講義・演習③	
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 専門 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護①小児の発達と看護 メディカ出版		評価方法 筆記試験 70% 課題 30%
参考図書 国民衛生の動向 厚生統計協会編集 筒井真優美他 小児看護学 日総研		
受講上の注意 関連科目：家族看護論		

科目名 小児看護学援助論 I	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。 ・子どもの最善の利益を考慮し、子どもの力を引き出す援助を考えることができる。 ・子どもと家族の療養環境を理解し、子どもの療養環境を整える重要性を理解する。 ・小児看護に必要なアセスメントの視点と看護技術を理解する。 ・検査や処置を受ける子どもの安全と苦痛を最小限にした看護を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 子どもと病気 1) 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響 2) 病気に伴う子どものストレスと対処 2. 子どもにとっての最善の利益を目指した看護 子どもの力を引き出す援助、子どもの病気の理解と説明、プレパレーション 3. 1) 小児の療養の場と安全・安楽な療養環境の調整 2) 健康問題や障がいをもつ子どもの発達段階に応じた看護	講義 演習①	レポート課題① 病気をもつ子どもと家族について 演習① 健康問題や障がいをもつ子どもの発達段階に応じた看護 (GW)
4. 子どものアセスメント コミュニケーション技術、フィジカルアセスメントの特徴と技術、身体的アセスメント、バイタルサインの測定、身体計測、成長・発達の評価	講義	演習② ・安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防)
5～6. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) 子どもの検体採取の方法 (採血、穿刺 (骨髄、腰椎)、採尿、固定) 2) 子どもへの与薬方法と看護 (与薬、注射、輸液療法、吸入)	講義	・バイタルサイン測定 (バイタルサインベビー)
7. 小児の看護技術 (事故防止、子どものバイタルサイン測定)	演習②	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座専門 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門 小児臨床看護各論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護①小児の発達と看護 メディカ出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ		評価方法 筆記試験 90% 課題 10%
参考図書		
受講上の注意 関連科目：フィジカルアセスメント、診療の補助技術 I・II		

科目名 小児看護学援助論Ⅱ	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員* 臨床看護師*
科目のねらい・授業目標 ・健康問題をもつ子どもとその家族が、生活・療養するための看護を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 子どもの発達障害と看護 子どもの虐待と看護 2～4. 症状を示す子どもの看護 疼痛、発熱、嘔吐・下痢、脱水、けいれん、呼吸困難 5. 感染症の子どもと看護	講義 演習	専任教員 小児に特徴的な症状と看護 演習 (GW)
6. 外来における子どもと家族の看護 救急救命処置が必要な子どもと家族の看護 7. 急性期にある子どもと家族の看護 (肺炎、川崎病) 8. 慢性期にある子どもと家族の看護 (気管支喘息、ネフローゼ症候群) 9. 先天性疾患のある子どもと家族の看護 (ファロー四徴症) 10. 周手術期にある子どもと家族の看護 11. 終末期にある子どもと家族の看護 (白血病) 12. 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護 13. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護 1) 継続看護 2) 地域で暮らす健康障害をもつ子どもの支援 14. 重症心身障害のある子どもと家族の看護	講義	臨床看護師 ※時間外、試験あり
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座専門 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門 小児臨床看護各論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護①小児の発達と看護 メディカ出版		評価方法 臨床看護師 筆記試験
参考図書		専任教員
受講上の注意 関連科目：疾病論Ⅳ小児疾患の病態、症状、検査、診断、治療		筆記試験 70% 課題 30%

科目名 小児看護学実習	時間数 2単位	時間 90時間
第二看護学科：3年次 6月～2月		
<p>目的 子どもの理解を深め、健康上の問題をもつ子どもとその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達の特徴を理解し、対象に適した成長・発達を支援する援助ができる。 2. 子どもとその家族と円滑な人間関係を築く関わりができる。 3. 健康障害や入院、治療が子どもやその家族に及ぼす影響を理解する。 4. 健康段階に応じた子どもとその家族への看護の方向性を理解し、意思決定支援や最善の利益を目指した看護を実践できる。 5. 対象に適した方法で小児看護技術を実践することができる。 6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。 7. 自己の小児観を養う。 <p>【保育所実習】</p> <p>目的 健康な乳幼児の理解を深め、その発達段階に応じた働きかけを学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに親しみをもって関わることができる。 2. 子どもの成長発達段階を理解する。 3. 基本的な生活習慣を理解する。 4. 子どもにとっての遊びの重要性を理解する。 5. 健全な成長発達を促進するための働きかけを理解する。 6. 保育所と家庭及び地域との連携のあり方を理解できる。 <p>【小児病棟実習】</p> <p>目的 健康問題をもつ子どもとその家族を理解し、成長発達段階、健康段階に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとその家族と円滑な関係を築く関わりができる。 2. 健康問題、入院、治療が子どもや家族に及ぼす影響をアセスメントし、看護の方向性を考えることができる。 3. 子どもの成長・発達に応じた安全・安楽な援助ができる。 		

4. 子どもの最善の利益を目指して、子どもの力を引き出す援助ができる。
5. 対象に合わせて実践した援助に対して省察し、次の援助に活かすことができる。
6. 多職種との連携・協働や継続看護を理解し、小児看護の役割を考える。
7. 小児看護に関する関心を深め、小児観を養う。

●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照

受講上の注意

表1 ささまざまな状況にある小児の看護

経過別	系統別	主な疾患	主な症状	治療・処置・検査	看護
急性期		低出生体重児	無呼吸 低体温 黄疸 低血糖	保育器、光線療法、感染予防 呼吸・循環・体温管理 身体計測、経管栄養 輸液管理	ハイリスク新生児 母子関係(アタッチメント)
急性期	呼吸器疾患	肺炎	不機嫌、啼泣 発熱 呼吸困難	輸液療法、酸素療法 薬物療法	急性期にある子どもと家族への看護
急性期	消化器疾患	ヒルシュスプリング 病	便秘、下痢 腹部膨満	手術療法	周手術期にある子どもと家族への看護
急性期 回復期	循環器疾患	川崎病	発熱、発疹	輸液療法、薬物療法 検査(ECG、心エコー、冠動脈造影)	急性期にある子どもと家族への看護
急性期 回復期	循環器疾患	アロー四徴症	低酸素発作	手術療法	先天性疾患のある子どもと家族への看護
終末期 慢性期	血液疾患	白血病	発熱、倦怠感 出血傾向 貧血	化学療法(寛解導入、維持、強化) 放射線療法	終末期にある子どもと家族への看護
急性期 回復期	泌尿・生殖器疾患	急性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群	浮腫、高血圧	安静、食事療法	活動制限が必要な子どもと家族への看護 慢性期にある子どもと家族への看護
慢性期	アレルギー疾患	気管支喘息	喘息発作	薬物療法、日常生活管理	
慢性期		CP・MR・EP 脳性麻痺 精神発達遅滞 てんかん			重症・心身障害のある子どもと家族への看護

母性看護学

目的

女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成を目指し、産み育てるための母性への支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

目標

1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念を理解する。
2. 親になることの意味を考え、母性のとらえかたについて理解する。
3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。
4. リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解する。
5. 女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ看護や保健指導について理解する。
6. 性と生殖に関する倫理観を養う。
7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象とその家族を理解する。
8. 周産期にある対象に次世代の健全な育成に向けてセルフケアを高める援助を理解する。

構成

母性看護学

4 単位 (105 時間)

母性看護学概論 I 1 単位 (30 時間)

親になること、母性看護のあり方
対象を取り巻く社会の変遷と現状
リプロダクティブヘルスケア

専任教員
開業助産師

母性看護学概論 II 1 単位 (15 時間)

ライフステージ各期の特徴と看護

専任教員

母性看護学援助論 I 1 単位 (30 時間)

正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過とその看護

専任教員
開業助産師

母性看護学援助論 II 1 単位 (30 時間)

妊娠・分娩・産褥・新生児の異常とその看護
母性看護の看護展開 母性看護技術

医師・臨床助産師
専任教員

母性看護学実習

2 単位 (64 時間)

周産期にある対象の看護

実習場所一産科病棟・産科外来

科目名 母性看護学概論Ⅱ	時間数 1単位 15時間 時期 3年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1 ライフサイクルにおける女性の健康と看護	講義	専任教員
2 思春期女性の特徴	講義・演習	演習実例検討
3 思春期の健康問題と看護 1) 月経異常 2) 性感染症 3) 妊娠		
4 成熟期女性の特徴		
5 成熟期女性の健康問題と看護 1) 月経困難症 2) 女性に特有のがん 3) 不妊症	講義・演習	
6 更年期・老年期女性の特徴	講義・演習	
7 更年期・老年期女性の健康問題と看護 1) 更年期症状・更年期障害 2) 性交疼痛障害 3) 尿失禁 4) 子宮脱・子宮下垂		
8 試験	筆記試験	
使用する図書 1. 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院		評価方法 専任教員 筆記試験 80% 課題 20%
参考図書		
受講上の注意		

科目名 母性看護学援助論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次前期	講義担当者 専任教員* 開業助産師*
科目のねらい・授業目標 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象とその家族が理解できる。 2. 周産期にある対象に次世代の健全な育成に向けてセルフケアを高める援助が理解できる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1－4. 妊娠の経過とその看護 1) 妊娠の経過 2) 妊婦と胎児のアセスメント 3) 妊婦と家族の看護：セルフケア、親になるための準備教育	講義	専任教員
5－7. 分娩の経過とその看護 1) 分娩の生理、分娩経過 2) 産婦・胎児、家族のアセスメント 3) 産婦と家族の看護	講義	
8－11. 新生児の生理とその看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護	講義	
11－13. 産褥の経過とその看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護：復古を促進させる援助、母乳栄養確立への援助 母子関係確立への援助、家族再構築への看護	講義	
14. 施設退院後の看護 子育て支援	講義	開業助産師
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ	評価方法 専任教員 筆記試験	
参考図書 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院		
受講上の注意		

科目名 母性看護学援助論Ⅱ	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 医師* 臨床助産師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 周産期特有の疾患の病態、症状、診断、治療を理解する。 2. 異常時の妊産褥婦・新生児とその看護を理解する。 3. 紙上事例を通して、母性看護の看護展開が実践する。 4. 基本的な母性看護技術を実践し、その方法について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1－3. 妊娠、分娩、産褥の異常 1) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・流産・早産・多胎妊娠 2) 前置胎盤・常位胎盤早期剥離・胎児機能不全・分娩時の異常出血・帝王切開 3) 子宮復古不全・産褥期精神障害	講義	医師
4－7. 異常妊娠、分娩、産褥、新生児の看護 1) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・多胎妊娠・流産・早産 2) 分娩遷延・破水・胎児機能不全・帝王切開 3) 母子分離・産褥期精神障害・死産・乳房トラブル 4) 低出生体重児・高ビリルビン血症・先天異常をもつ新生児	講義	臨床助産師
8－10. 母性看護における看護展開の特殊性 母性看護の特徴（母子1組・ウェルネスの考え方） 妊娠期の看護 妊娠初期・妊娠中期・妊娠後期 関連図の作成 褥婦と新生児の看護 産褥1日目～3日目	演習	専任教員 演習：事例検討 <学内演習①> ・産褥3日目の母子の看護 <学内演習②>
11. 褥婦と新生児の看護 産褥3日目	学内演習①	・胎児心音の聴取
12. 褥婦と新生児の看護 産褥3日目・退院に向けて	演習	・新生児の観察・身体計測
13－14. 母性の看護技術	学内演習②	・沐浴
15. 褥婦と新生児の看護 退院時の看護	演習	
使用する図書 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		評価方法 医師 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院		臨床助産師 筆記試験
受講上の注意 看護技術は事前の練習をして臨むこと		専任教員 課題

科目名 母性看護学実習	単位数 2単位	時間 64時間
第二看護学科：4年次 4月～10月		
<p>目的</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、女性のライフサイクルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>【産科病棟・外来】</p> <p>目標 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的経過を理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に対する保健指導を理解する。 3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を含めたアセスメントを行い、必要な看護援助を実践し評価する。 4. 母性看護における継続看護の必要性を理解する。 5. 妊娠・分娩・産褥期における親子関係について理解する。 6. 生命の誕生に関わることを大切にし、対象を尊重した態度をとる。 7. 看護の体験と学習を結びつけ、母性観、父性観を育む。</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

精神看護学

目 的

精神の健康を保持増進するための支援や、精神に何らかの健康問題を抱えている人々がその人らしく生きるための支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

目 標

1. 発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康から不健康を多角的に理解する。
2. 精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。
3. 精神に何らかの健康問題を抱えている人々とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。
4. 地域精神保健活動のシステムと活動の実際を理解する。
5. 精神保健福祉活動における看護の責任と役割を理解する。
6. 災害における精神保健福祉活動を理解する。
7. 精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。
8. 精神障がいのある対象者に応じた看護を理解する。
9. 精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察をおこない、対象との関係性の構築を考えることができる。
10. 精神障がいのある対象者の地域生活への支援を理解する。

精神看護学 4 単位90時間	精神看護学概論Ⅰ 1 単位15時間	発達理論、精神力動論、医学モデルなどからの精神疾患のある対象の理解
	精神看護学概論Ⅱ 1 単位15時間	精神保健福祉活動や地域精神保健福祉活動における看護の役割の理解 災害における精神保健福祉活動
	精神看護学援助論Ⅰ 1 単位30時間	精神障がいのある対象とその家族の理解 精神の健康回復への基礎的な看護援助技術の習得
	精神看護学援助論Ⅱ 1 単位30時間	精神障がいのある対象のそのひとらしさを考えた看護の理解 看護師としての自己洞察の重要性の理解
精神看護学実習 2 単位90時間	病棟実習	対象との関係構築場面における関係性の発展過程と精神の健康回復への援助の実践
	社会復帰施設実習	精神障がいのある対象の地域支援について理解する

科目名 精神看護学概論 I	時間数 1 単位 1 5 時間 時期 2 年次 前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康と精神疾患のある対象を多角的に理解する。 2. 精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。 3. 精神機能の障害のある人とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. パーソナリティの成長発達 2. ストレスと対処行動 3. 適応と心身の健康	講義	専任教員
4. ライフステージにおける発達課題① 5. ライフステージにおける発達課題②	講義	
6. 生活の場と精神健康問題① 7. 生活の場と精神健康問題②	演習	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院, 武井麻子他 2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院, 武井麻子他		評価方法 筆記試験 80% 課題 20%
参考図書		
受講上の注意		

科目名 精神看護学概論Ⅱ	時間数 1 単位 1 5 時間 時期 3 年次 前期	講義担当者 精神保健福祉士＊
科目のねらい・授業目標 1. 地域精神保健活動のシステムと活動の実際を理解する。 2. 精神保健福祉活動における看護の責任と役割を理解する。 3. 災害における精神保健福祉活動を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 精神保健福祉の歴史 2. 精神保健福祉法の現状	講義	精神保健福祉士
3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度① 4. 精神保健医療福祉をめぐる法制度②	講義	
5. 地域精神保健活動の実際 6. 災害における精神保健福祉援助① 7. 災害における精神保健福祉援助②	講義	
8. 試験	筆記試験	
使用する図書 1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院, 武井麻子他 2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院, 武井麻子他		評価方法 筆記試験 100%
参考図書 1. 精神保健福祉, 医学書院, 長谷川浩 2. 社会保障・社会福祉, 医学書院, 福田素生他		
受講上の注意		

科目名 精神看護学援助論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 3 年次前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。 ・急性期における精神障がいをもつ対象に応じた看護を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1-4. 精神疾患をもつ対象の看護① 1) 気分障害 2) 発達障害 5-7. 精神疾患をもつ対象の看護② 1) アルコール使用障害 2) パーソナリティ障害 3) 摂食障害	講義	臨床看護師 (14 時間)
8-12. 精神障がいをもつ対象とその家族の看護 1) 地域で暮らす精神疾患をもつ対象とは 2) 精神看護に必要な基本的看護技術 ・患者-看護師関係成立の技術 ・精神状態をアセスメントする技術 ・不安の援助と防衛機制 3) 精神科の入院 ・行動制限と治療 ・急性期の看護 4) 精神科治療と看護 ・対象の回復過程を考えた治療の進展と看護 5) セルフケアモデルから患者の状態をアセスメントする 6) 社会復帰に向けた看護 ・入院患者の退院支援 ・地域で暮らす精神障がいのある対象者への支援 7) リエゾン精神看護	講義・演習	専任教員 * 1 事例を通し、対象の生活の中で、急性期を中心に精神科病院の入院、行動制限、治療と看護、社会復帰に向けての看護を学ぶ。
13. 14. 精神疾患をもつ人の生きづらさ・生きにくさの理解	DVD 視聴・演習	
15. 筆記試験		

<p>使用する図書・教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院, 武井麻子他 2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院, 武井麻子他 3. 精神看護学学生-患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版, 田中美恵子 4. DVD「ビューティフルマインド」 	<p>評価方法 〈専任教員〉 筆記試験 60% 課題 40%</p> <p>*外部講師は加重平均で筆記試験を実施(授業時間外)</p>
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレングスからみた精神看護過程 医学書院 	
<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習;オレム・アンダーウッドのセルフケア理論をA4レポート用紙5枚にまとめる。 	

科目名 精神看護学援助論Ⅱ	時間数 1単位 30時間 時期 3年次後期	講義担当者 専任教員*	
科目のねらい・授業目標 ・慢性期における精神障がいをもつ対象に応じた看護を理解する。 ・精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察しうる能力を養う。 ・精神保健福祉の現状から、精神障がいをもつ人の地域生活への支援を理解する。			
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	授業内容	方法	備考
1-3. 精神看護における看護場面の再構成 1) ロールプレイ 2) 感情活用の実際	講義・演習	・ロールプレイ ・グループワーク	
4-10. 慢性期における精神障がいをもつ対象とその家族の看護 1) 長期療養患者・家族の背景 ・社会背景 ・患者・家族の背景 ・看護者の背景 2) 慢性期における主な治療と看護 3) 自立的生活への援助；ストレングスモデル 4) 長期療養患者の退院支援 5) 慢性期における精神障がいをもつ対象とその家族への看護の実際を考える 11-13. 精神保健福祉の現状を理解する 1) 長期入院患者の退院について 2) 地域に住む精神障害をもつ対象の社会資源 14. 演習の振り返り	講義・演習	・グループワーク ・プレゼンテーション ・ディベート *長期療養患者の看護を、事例を通しストレングスとセルフケアを視点に考える。 *実習記録用紙を使用	
15. 試験	筆記試験		
使用する図書 1. 精神看護学①精神看護の基礎，医学書院，武井麻子他 2. 精神看護学②精神看護の展開，医学書院，武井麻子他 3. 精神看護学学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，田中美恵子		評価方法 筆記試験 40% 課題 60%	
参考図書 1. 看護場面の再構成 日本看護協会出版会，宮本真弓 2. ストレングスからみた精神看護過程 医学書院			
受講上の注意			

科目名 精神看護学実習	単位数 2 単位	時間 90 時間
第二看護学科：4 年次 4 月～6 月 第三看護学科：3 年次 7 月～9 月		
<p>目的</p> <p>精神の障がいがある人及びその家族の理解を深め、精神の健康回復への看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察することができる。 2. 患者－看護師関係の発展過程を理解することができる。 3. その人らしさをふまえた看護の方向性を考え実践することができる。 4. 精神障がいのある対象が地域で生活していく上で求められる精神看護の役割を考えることができる。 <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院の機能・構造 2. 精神科病棟に入院している患者の病態生理、必要な検査、治療、予後 3. 受け持ち患者との関係性の発展過程の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 再構成を記載し自己洞察をする 2) 患者の強みを見出す 3) 感情活用 4. 精神科病棟に入院している患者のアセスメントと看護の方向性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体像の関連図から、オレム・アンダーウッズのセルフケア理論を使用した患者の日常生活への影響を考える 2) ストレングスモデルから患者の目標を設定 3) 臨床判断モデルから考える看護の実践 5. 病棟における退院支援；看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) スタッフミーティングへの参加 2) 実際の退院支援の見学 <p>【社会復帰施設実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デイケアの役割・機能 2. 継続医療の実際；外来の役割・機能 3. グループホームなど社会復帰施設の見学 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
<p>学習上の注意</p> <p>事前学習</p>		

看護の統合と実践

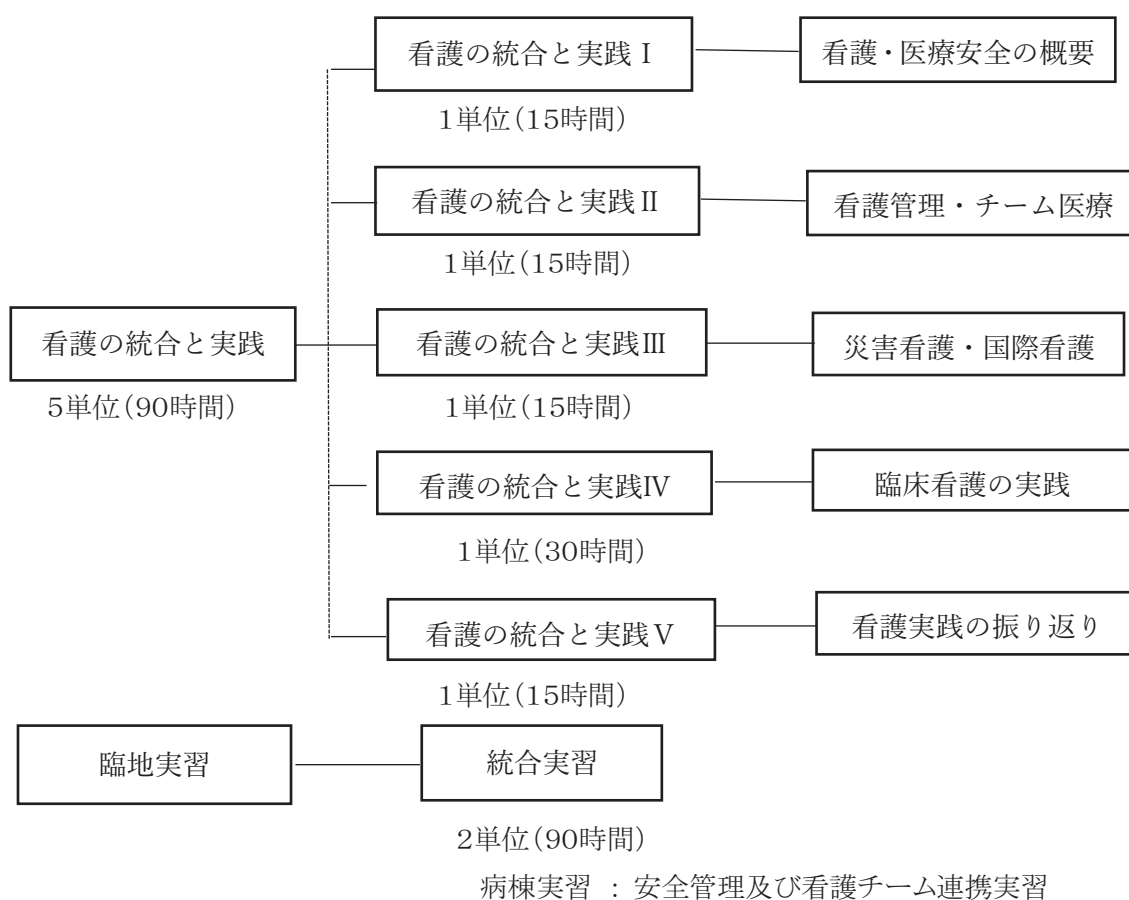
目的

看護の知識・技術を統合し、臨床に適応する基礎的能力を養う。

目標

1. 保健・医療・福祉チームの一員として協働するために、看護職としての役割とマネジメント能力の必要性を理解する。
2. 医療安全の基礎的知識を学び、看護・医療事故やその影響を最小限にすることのできる知識と技術を習得し、看護・医療安全を遵守する意思を高める。
3. 災害看護の役割・災害直後から支援できる基礎的知識について理解する。
4. 世界の健康問題と看護の現状と課題をふまえ、看護の国際協力の活動内容の実際を知り、諸外国で展開される、看護実践や国際的な支援活動について学び、国際的視野を広げる。
5. 既習の知識・技術・態度を統合し、様々な場面においてその技術を活用できる能力を養う。
6. 自己の看護の修得状況を認識し、熟練・向上するために継続的に学習する能力を養う。
7. 看護職以外の専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と他職種との連携・協働について考える。
8. 自己の看護観をまとめ、看護専門職としての目標を明確にする。

構成



科目名 看護の統合と実践 I	時間数 1 単位/15 時間 時期 3 年次後期	講義担当者 専任教員もしくは 臨床医療安全管理 者（経験者）＊
科目のねらい・授業目標 1. 医療安全を学ぶことの意義や医療事故に関する基礎的知識が理解できる。 2. 事例を通して看護業務を行う上での種々の危険因子を説明できる。 3. 事故防止のための具体的な行動について理解し、判断力を高める。 4. 安全管理に取り組む組織の一員として自覚を高める。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1－2. 看護・医療事故予防 1) 医療安全を学ぶことの大切さ 2) 事故防止の考え方を学ぶ ・医療事故と看護業務・看護事故の構造・看護事故防止の考え方	講義	臨床医療安全管理者 ＊看護・医療事故予防の実践については、危険予知トレーニングを含むものとする
3－5. 看護・医療事故予防の実践 1) 診療の補助の事故防止 2) 療養上の世話の事故防止 3) 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 4) 看護師の労働安全衛生上の事故防止	講義 演習	＊事例は医療安全ワークブックを参考とする
6－7. 医療安全管理 1) 組織的な安全管理体制への取り組み 2) 医療安全対策の国内外の潮流	講義	＊事例は医療安全ワークブックを参考とする
8. 試験（45分）	筆記試験	
使用する図書 系統看護学講座 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 看護学概論 医学書院		
受講上の注意		

科目名 看護の統合と実践Ⅳ	時間数 1 単位/ 3 0 時間 時期 4 年次全期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 複数の対象の状態に応じて、起こり得ることを予測した看護援助が判断できる。 2. 複数の対象に必要な援助の優先順位を状況に応じて決定および修正ができ、行動計画が立案できる。 3. 複数の対象の状況や状態に応じた看護援助が実践できる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1—6. 複数の対象者の状況・状態に応じた援助方法 1) 複数受け持ち患者のタイムスケジュールの考え方 ・対象理解と安全の判断、優先度の判断、倫理的判断 2) 同時に複数の課題が重なる場合、割り込み状況発生時の対処方法 ・対象者の必要な情報収集、アセスメント、対象者の状態に応じた看護 ・報告・連絡・相談、医療チームの一員としての連携 3) 複数の受持ち患者の援助の実際 ・本日の目標と行動計画の立案 ・患者の状況・状態に応じた援助を実践と振り返り。	講義 演習 演習 ロールプレイ	個人ワーク グループワーク
7—12. 複数の対象者の状況・状態に応じた援助の実際 1) 状況・状態の変化への対応の実際 2) 振り返り	演習	シミュレーション

<p>13-15. 統合実習を終えての振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数の対象者の状況・状態の変化への対応の実際の経験の振り返り 2) 複数の対象者の状況・状態の変化への対応で大切にすること 3) 看護の対象に最適な看護を実践する上で学び学び続けていくこと 	<p>演習</p>	<p>グループワーク 発表</p>
<p>使用する図書</p>	<p>評価方法</p>	
<p>参考図書</p>	<p>シミュレーション 50%</p>	
<p>受講上の注意</p>	<p>課題レポート 50%</p>	

科目名 看護の統合と実践V	時間数 1 単位/15 時間 時期 4 年次後期	講義担当者 専任教員	
科目のねらい・授業目標 1. 自己の経験を振り返り、対象の理解や看護の意味を考えることができる。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。			
回	授業内容	方法	備考
1. 自己の考える看護について 1) 実習の経験の振り返り 2) 大切にしたい看護の意味 3) 看護理論との関連 ・文献をもとに自己の体験の裏付け 4) 今後の目標・課題	講義		
2. リフレクション 1) 実習の経験の振り返り 2) 自己の大切にしたい看護の意味	演習		グループでの意見交換を基に看護観をまとめる
3－7. 看護観を他者に伝え、自己の看護についての振り返り	発表会		
8. 看護観発表を終えての評価 1) 自己評価 2) 他者の看護観からの学び 3) 看護専門職としての目標	演習		看護観発表会後に実施
使用する図書 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 系統看護学講座 情報科学 医学書院			評価方法 課題
参考図書 看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社			
受講上の注意 看護観のまとめは、授業時間外でも計画的にすすめること。 発表会で看護観を共有し深めること。			

科目名 統合実習	単位数 2 単位	時間 90 時間
第二看護学科：4 年次 8 月～11 月		
<p>目的</p> <p>チーム医療の一員として協働できる基礎的能力および、対象への看護実践能力を高める。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護チームの一員として、対象の健康状態やその変化に応じた看護実践ができる。 2. 病院および病棟における看護管理と医療安全の実際を理解できる。 3. 看護チームの一員としてメンバー及びリーダーの役割を理解できる。 4. チーム医療における多職種連携・協働について理解できる。 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

XI. 教育に関する事項

1 授業時間

- (1) 年間授業週数 44 週
- (2) 週当たりの授業時間数 24 時間
- (3) 講義は、45 分を 1 時間とし、2 時間 (90 分) を 1 時限とする。
- (4) 実習は、50 分を 1 時間とし、1 日 8 時間とする。

2 授業単位数 (時間数)

- (1) 教科授業総単位数 109 単位 (3072 時間)
 - 講義 84 単位 (2025 時間)
 - 実習 25 単位 (1047 時間)

3 年間休業日

- 土・日曜日
- 国民の祝日に関する法律に定める日
- 春季休業日 2 週
- 夏季休業日 4 週
- 冬季休業日 2 週
- その他学校長が必要と認めた日

4. 日課表

講 義	
1 限目 9 : 00 ~ 10 : 30	月・火・木・金曜日 13 : 30 ~ 16 : 40 水曜日 9 : 00 ~ 16 : 40
2 限目 10 : 40 ~ 12 : 10	
(昼休み 12 : 10 ~ 13 : 30)	
3 限目 13 : 30 ~ 15 : 00	
4 限目 15 : 10 ~ 16 : 40	

実 習
1 日実習 8 : 30 ~ 16 : 10

XII. 教科外教育活動

項 目		ね ら い	備 考
学 校 行 事	入学式	入学許可及び看護志向の自覚啓発 と学習意欲の動機づけ	
	卒業式	教育課程修了の認定及び看護職と して、社会に貢献する自覚の動機 づけ	
	戴帽式	実習に臨むにあたり、これから看 護者としてのふさわしい態度を身に つけ、看護を志す決意と責任の自 覚を促す	
	学校祭	学生の自主性、協調性、創造性を 養う	
	定期健康診断	学生の健康管理を行うとともに、 健康・保健に対する意識を高める	
	災害訓練	災害時の避難行動を体験し、災害 に対する危機管理の認識を高める	
課 外 活 動	入学時 オリエンテーション	教育課程のガイダンス及び学校生 活に係わる規律や施設利用のオリ エンテーション	
	特別講義	特別講義により視野を広める	
	ホームルーム	教育活動を補い、学校生活を円滑 にすすめる	

非 売 品

シ ラ バ ス

発 行 日 2026年 4 月

編 集 石川県立総合看護専門学校
専 門 課 程 第 二 看 護 学 科

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目1番地
TEL (076) 238-5877 (代)

印 刷 株式会社 谷 印 刷

〒921-8022 金沢市中村町28番14号
TEL (076) 242-7267番